# 2016 京都橘大学
# 「地域連携型教育プログラム」実績集
## （「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2016年4月～2017年3月）

京都橘大学地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

# 目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集


| | | |
|---|---|---|
| Ⅰ．はじめに | | 2 |
| Ⅱ．2016年度 京都橘大学「地域連携型教育プログラム」1年の歩み | | 3 |
| Ⅲ．「学まち連携大学」促進事業の実績 | | |
| 実践例 | 山科駅周辺にサテライト開設！！ 京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」 | 8 |
| | 救急救命学科主催イベント ＃つながるたちばな 健康爽快ウォーク 2016 | 9 |
| | 山科ブランド農産物の知名度アップに関する活動 | 10 |
| | 京都市事務事業評価サポーター制度への参加と表彰 | 11 |
| | 音楽を通した交流―アウトリーチ活動 | 12 |
| | 地域の人とのつながりが活動の支えに げん Kids ★ 応援隊 | 13 |
| | 地域の障害者と自立支援の NPO と芸術家との協働文化プロデュース活動 「めくるめく紙芝居」プロジェクトの取り組み | 14 |
| | 地域連携 PBL 公務編 | 15 |
| | まち歩きで見つけたこだわりの店を紹介する「こだわり市場」（小冊子および Web）の制作 | 16 |
| | 看護お助け隊 in 醍醐中山団地 高齢者の家庭に訪問し生活を学ぶ実習 | 17 |
| | 学生企画による山科ガイドブック 『やましなっぷ』の研究開発 | 18 |
| | やましな駅前陶灯路・イベント PR と商品開発 | 19 |
| | 醍醐地区の高齢者を対象に みんないきいき幸齢教室 | 20 |
| | 特許を活用した地域ビジネス創生 PBL ～「知財活用アイデア全国大会」を通じて～ | 21 |
| | たちばな健康相談 | 22 |
| | グローカル人材開発センター提供 PBL プログラム 有限会社アイ工房の販路開拓案の立案に関する産学連携 PBL 活動 | 23 |
| | 今年度から始まった、地域文化ホールとの地域連携学習 「文化芸術による地域貢献プロジェクト」の活動 | 24 |
| | 「日常生活から見つけた京都文化の発信・体験プラン」コンテスト最優秀賞受賞 | 25 |
| | 京の七夕でのオリジナルうちわ配布、書道部による短冊 | 26 |
| 一覧表 | その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧 | 27 |
| Ⅳ．その他の地域連携型教育プログラムの実績 | | |
| 実践例 | ～世界遺産醍醐寺の原点である上醍醐の魅力を伝えるマップ・パンフレットの提案～ 大学コンソーシアム京都 京都世界遺産 PBL（醍醐山道ほとけ手帳の製作） | 32 |
| | 「大津市老人クラブ連合会との連携事業」の活動 高齢者の力をかりて学ぶ看護学実習 | 33 |
| | 草津市における来街者調査の実施 「マーケティング調査演習」の取り組み | 34 |
| | 心理学科 地域課題研究 野洲市における乳幼児との遊びを通しての交流体験と子育て支援の課題 | 35 |
| | 第3回 草津まちイルミでの取り組み | 36 |
| | 高齢者の健康づくり 高齢者の健康促進活動 | 37 |
| | 音楽をテーマとした守山のまちおこし ルシオール・アート・キッズ・フェスティバル | 38 |
| | 京都橘大学・熊野再発見プロジェクトの活動について | 39 |
| 一覧表 | その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧 | 40 |
| Ⅴ．産学連携（共同研究等） | 自動車運転時の眠気解消技術開発のための基礎研究「体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響」 アイシン精機株式会社との共同研究 | 41 |
| Ⅵ．公的研究費・助成金等一覧 | | 42 |
| Ⅶ．協定等 | 自治体等との連携協力に関する協定の締結 | 43 |
| Ⅷ．教員の活動実績等 | 2016年度 学部・学科別活動実績 1 地域を対象とした研究活動 2 地域貢献活動 | 46 |
| Ⅸ．広報誌「つながる」 | 2016年度 CONTENTS | 54 |

# 京都橘大学
# 「地域連携型教育プログラム」実績集
## (「学まち連携大学」促進事業実績集)

(2016年4月～2017年3月)

京都橘大学地域連携推進機構
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

# はじめに

木 下 達 文
地域連携センター長

## 地域連携センターの実績と役割

「京都橘大学地域連携センター」は、2014 年 4 月に、それまで設置されていた「文化政策研究センター（設立は 2000 年。その後、2012 年に「地域政策・社会連携推進センター」と改組)」をより発展的に展開させ、大学全体として地域社会や地方自治体・企業・NPO 法人等と様々な連携事業を展開しています。また、各学部の教育・研究成果を社会に還元するエクステンション講座や、職業をもった人に専門的な学習の機会を提供するリカレント講座も毎年実施しています。当センターは、清風館 2 階にあり、「研究交流スペース」を設置しています。利用は、本学学生・教職員のみならず、学外からの来訪者の利用も可能であり、各種研究会・学習会等、自由な学習・研究活動に利用できます。加えて、文化政策、公共政策、現代ビジネス等に関する各種の基礎的資料が収集・整備され、利用が可能となっています。

## 2016 年度は「学まち連携大学」事業を受託

本学は地域連携センターを核として長期に渡る地域連携事業を実施してきており、昨年度よりその実態をきちんと可視化できるよう各年度毎に『地域連携実績集』をまとめていくことといたしました。本年度特記すべき事項は、京都市の「学まち連携大学」促進事業の採択を受けたことです。今回の事業を進めるにあたって、改めて地域課題の整理と本学の強みを検討し、大きく３つの基幹課題と、７つの教育プログラムを展開することといたしました。３つの基幹課題とは、①「暮らしの安心･安全･健康･福祉･育ちあい」、②「地域 ( 経済 ) 振興、まちづくり」、③「地域文化・歴史の継承、観光振興」です。これらの重点課題に沿って７つの教育プログラムを対応するような形で展開を考えました。ただ、これらは特別新しいことではなく、これまで本学が総合的に取り組んできた地域連携活動とそれに連動する教育システムを「地域連携型教育プログラム」と再定義し、より充実発展させるような形で設定しています。本年度の実績集は、この教育プログラムを中心として編集させて頂いております。

## 山科の「まちなか拠点」としてのサテライトの整備

今後の展開としては､「学まち連携大学」促進事業の一環として山科駅前に大学のサテライトセンター（名称を「京都橘大学サテライト・ラボラトリー『たちラボ山科』」としました）を設置します。大学のサテライトセンターはそれほど目新しいものではありませんが、本学として駅前等繁華街におけるサテライトの設置は初めての試みとなります。スペースはそれほど大きなものではありませんが、「小さく産んで、大きく育てる」をモットーに、展開ができればと考えております。なにより、これまでの全国の事例を研究しつつ、この地域にとってのサテライトはどうあるべきかを地域の方々と一緒に考え、育てていければと思います。大学ができることは限られますが、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 2016 年度

# 京都橘大学「地域連携型教育プログラム」この１年の歩み

| | | |
|---|---|---|
| 2016 年 | 4 月 | 醍醐中山団地国際シェアルーム本学学生入居者の「入居者ご挨拶会」を開催、団地住民との交流を行う（4/9） |
| | | 2015 年度草津市との連携「地域課題研究プロジェクト･幼稚園ステップアップ事業」のまとめとして､広報誌「くさつっ子」を編集・発行 |
| | | KYOTO 駅ナカアートプロジェクトに参加し京都市営地下鉄・椥辻（なぎつじ）駅に本学学生らの作品を展示（3/23 ～ 5/31） |
| | | U・I ターン就職支援に関し、石川県、群馬県と協定を締結（4/1） |
| | | 第 48 回草津宿場まつりで、げん Kids ☆ 応援隊が「たちばなちびっこらんど」を開催（4/24） |
| | | 「未来（あす）の地球へのメッセージ展―チェルノブイリ・京都・福島　少年少女絵画展」に協賛。実行委員会参加や学生のボランティアが実施協力（4/26） |
| | | 看護学部教員および学生による､介護をされる方々や地域の住民を対象とした『いちごカフェ』を開催（4/25）（毎月開催） |
| | | 看護学部教員および学生による、地域の高齢者に手芸などを教えていただく月一回の『はなたちばなの会』を開催（4/27）（毎月開催） |
| | | びわ湖のほとりで開催される音楽祭､「ラ･フォル･ジュルネびわ湖 2016/la nature – ナチュール – 自然と音楽」（びわ湖ホール）2016 年に、本学学生が、スタッフとして多数参加（4/29~5/1） |
| | 5 月 | 醍醐中山団地集会所において、団地「子供会」のイベントを行い、裏千家茶道部、和菓子研究会の学生が参加（5/8） |
| | | 東部文化会館主催､地下鉄山科駅「音の広場」で開催の「ナイス･ミート in 山科」に､本学放送研究部が司会で参加（5/14） |
| | | JR 山科駅周辺で山科商店会主催「第５回山科バルフェスタ」の協力団体として本学学生が参加（5/21･22） |
| | | ルシオール・アートキッズ・フェスティバル（守山市）に、本学学生が実施協力（5/22） |
| | | 歴史文化ゼミナール「京都・人とモノの再発見（全４回）の第一回目を石清水八幡宮で開催（5/22） |
| | | 小中学校教員を対象とした、児童リカレント講座「楽しくわかる教材・教具の作り方、使い方の交流」を開催（5/28） |
| | 6 月 | 谷口教授と学生が、学生目線で京都の「こだわり」を持った店を紹介した冊子『こだわり市場』を今年も発刊（6/1） |
| | | 健康科学部村田教授とアシックス商事・日本スリッパとの３年間の共同研究がスタート（6/1） |
| | | 和歌山県那智勝浦町と、和歌山県の県事業「大学のふるさと」協定を締結（6/3） |
| | | 救急救命学科教員と学生が、同志社中学校において心肺蘇生の講習会を実施。受講生は中学 2 年生 293 名（6/3） |
| | | 心理学科濱田助教が、大宅こども園でイクメンパパのための青空講座と園庭あそびに、講師として参加（6/4） |
| | | 野洲市の総合防災センターにて高齢者を対象に「たちばな健康体操　運動指導」を実施（6/8） |
| | | 健康科学部理学療法科の「地域課題研究」で、草津市健康福祉部長寿いきがい課の理学療法士木村先生を招き、地域高齢者の健康促進活動についてお話を伺う（6/8） |
| | | 文学部歴史遺産学科主催の公開ワークショップ「大英博物館所蔵ゴーランド・コレクション調査プロジェクト（京都編）」を開催（6/18） |
| | | 醍醐中山団地の健康イベント、看護学科教員および学生による、たちばな健康相談を開催（6/18） |
| | | 第５回たちばな研究サロンにおいて、神谷教授と濱田助教が、草津市連携事業に関する研究調査の成果報告（6/22） |
| | | 醍醐中山団地の健康イベント、理学療法学科学生による、「みんないきいき幸齢教室」を開催（6/25） |
| | 7 月 | 理学リカレント「糖尿病患者に対する理学療法、その評価と治療」を開催（7/2） |
| | | 「醍醐中山団地での交通安全教室」が、「平成 28 年度伏見区区民活動支援事業」の補助金交付事業に採択される（7/4） |
| | | 看護リカレント講座「高めよう実践力 Part3　療養生活を支える切れ目のない看護の実践―病院から地域への継続看護―」の第１回を開催（第２回 8/9　第３回 9/6　第４回 10/4　第５回 11/8） |
| | | 本学キャンパスで、学生および教職員による七夕陶灯路を開催（7/8） |

| | | |
|---|---|---|
| 2016 年 | 7月 | 女性歴史文化研究所シンポジウム「近代ヨーロッパ社会における身体表現と身体ケア―食とファッションを中心に―」を開催（7/9） |
| | | 那智勝浦町消防本部にて、地域の課題や地域が求める大学への要望などの意見交換会実施（7/10） |
| | | 大宅保育園の園児約 70 名を対象に「いのちの教育」として、心肺蘇生の講習を実施（7/14） |
| | | 看護学部が第 6 回障がい児支援講座を東支援学校と共同開催（7/28） |
| | 8月 | 救急救命学科の学生が、大阪ライフサポート協会主催で毎年開催している全国一斉 PUSH 運動に連動した心肺蘇生の講習を椛辻保育園で実施（8/2） |
| | | 「京の七夕」2016 に大学ブースを出展。書道部の学生が作品展示および参加（8/6 ～ 8/12） |
| | | 現代ビジネス学部木下ゼミの学生 48 名が那智勝浦町を訪問、同地域の観光政策課題や改善策を提案（8/6 ～ 8/8） |
| | 9月 | 理学療法学科が野洲市の野洲健康福祉センターにて高齢者を対象に体力測定を実施（9/8） |
| | | 心理学科 日比野教授が野洲市健康福祉センターにて「こどもの健康づくり教室～子どもの発達～」講演（9/12） |
| | | 「～山科区制 40 周記念事業～　平成 28 年度食の安全・安心（食中毒予防対策）」講習とパティシエから学ぶ洋菓子づくり実習を本学で開催（9/13） |
| | | 地域連携センター主催、第 7 回橘セッション開催（9/14） |
| | | 平成 28 年度第 1 回山科区役所と本学との連絡協議会および、2016 年度第 1 回「山科醍醐地域教育懇話会」を開催（9/15） |
| | | 和歌山県と就職支援の協定を締結（9/15） |
| | | 那智勝浦町との包括協定の一環として、「熊野学講座」をキャンパスプラザ京都で開催（9/18） |
| | | 野洲市総合防災センターにて「たちばな健康体操」を指導（9/20） |
| | | 本学による「山科地域で『育ちあう、響きあう』地域連携型教育プログラム」が、京都市および公益法人大学コンソーシアム京都による新規事業「学まち連携大学」促進事業に採択される（9/21） |
| | 10 月 | 経営デザインフォーラム「観光とそれを支える情報ビジネス」を開催（10/1） |
| | | 「清水焼陶灯焼セット」を商品化、販売（10/6） |
| | | 第 9 回やましな駅前陶灯路を開催（10/8） |
| | | 健康科学部理学療法学科安彦専任講師とヘルスプロモーションコースの学生が「腰痛予防教室」を開催（10/14） |
| | | 平成 28 年度京都市「未来の京都まちづくり表彰（うるおい）」を受ける（二度目の表彰）（10/15） |
| | | 第 49 回橘祭、協定・連携を締結した自治体（那智勝浦町や草津市など）の協力を得て盛大に開催（10/22・23） |
| | | 山科おやじフェスタ＆光のアートフェスタ in 山科に、救急救命士養成課程の学生が、救護所対応で参加（10/29） |
| | 11 月 | 救急フェスタ in 大阪 ～ 第 4 回いのちのリレー大会 ～」にて、救急救命学科の学生たちがステージでの心肺蘇生デモンストレーションや大会補助、来場者への心肺蘇生の指導などに参加（11/3） |
| | | 滋賀県草津市の JR 草津駅前エリアでは、「草津まちイルミ」開催に協力（11/4 ～ 12/25） |
| | | 救急救命フォーラム「京の都から発信する、京の都の災いの払いかた―そのとき、あなたはどうしはりますか？」を開催（11/5） |
| | | 醍醐中山団地にて理学療法学科学生による「みんないきいき幸齢教室」を実施（11/12） |
| | | 救急救命学科の学生が、震度 7 直下型地震を想定した山科区防災訓練の運営に協力参加（11/13） |
| | | 看護国際フォーラム「 " End of Life Care " 人によりそう看護」を京都国際会館で開催（11/13） |
| | | 山口県とＵ・Ｉターン就職促進に向けた相互連携・協力に合意（11/21） |
| | | 奈良で行われた「みんなの防災＋ソナエ」に、京都橘大学救急救命研究会 ～ TURF ～（ターフ）より救急救命学科の 4 回生 8 名が参加（11/23） |
| | | 醍醐中山団地にて看護学部が「看護プライマリケア実習」を実施（11/26） |
| | | 大津市瀬田公園体育館で、看護学科 1 回生「ライフサイクル論実習」の一環として大津市老人クラブ連合会会員を対象とした体力測定を実施（11/30） |
| | 12 月 | 笑顔とふれあいの家みささぎ（山科区）にて「健やかクラブ」を実施（12/7） |

| | | |
|---|---|---|
| 2016 年 | 12 月 | 近隣の中学校にて、プライマリケア実習の一環として健康教育を実施 (12/8) |
| | | 健康科学部救急救命学科主催の「爽快健康ウォーク」を開催（12/10） |
| | | 伏見区区民活動支援事業により、醍醐中山団地「交通安全教室」を開催（12/14） |
| | | 地域の高齢者の方を講師に招いて、手芸や工作を学ぶ「はなたちばなの会」を開催（12/23） |
| 2017 年 | 1 月 | 「U・I ターン就職フェア in Tachibana」を開催（1/11） |
| | | 看護学部「たちばな健康相談 in 醍醐中山団地」を開催（1/21） |
| | | 地域連携センターのリニューアル完了（1/23） |
| | | 本学にて看護学部主催の公開講座「リラクゼーション講座」を開催（1/27） |
| | 2 月 | 京都橘大学サテライトセンター、オープンに向けて始動（2/3） |
| | | 現代ビジネス学部小暮教授による「目くるめく紙芝居」を京都市 NPO 法人わくわくにて開催（2/5・3/25） |
| | | 草津市社会実験推進事業「認知機能と身体機能を高める – 講義と脳トレ体操 –」を実施（2/14） |
| | | 現代ビジネス学部谷口教授とゼミ生による、京都の「こだわり」を持った店を紹介した冊子『こだわり市場』の 2017 年春版を発刊（2/15） |
| | | 醍醐中山団地にて小学生向け「じてんしゃ教室」を開催（2/18） |
| | | 大階段駆け上がり大会（2/11）（那智勝浦町との連携事業） |
| | 3 月 | 京都市「学まち連携大学」促進事業として、第 8 回橘セッションを開催（3/3） |
| | | 平成 28 年度第 2 回山科区役所と本学との連絡協議会および、2016 年度第 1 回「地域教育懇話会」を開催（3/15） |
| | | 京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」開所式（3/30） |

# Ⅲ
# 「学まち連携大学」促進事業の実績

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

山科駅周辺にサテライト開設！！

# 京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」

京都橘大学

### サテライトとは

サテライトとは、大学等が地域連携活動や情報発信の拠点として駅前など人通りの多い場所に設ける施設です。大学によってその用途はさまざまですが、一般的には、大学主催行事、教員による研究会・講座、学生によるゼミの発表や展示、地域住民との交流イベントなどが行われます。

### 京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」について

地元山科区に根ざした大学を目指す本学のサテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」は、各線山科駅から徒歩約３分、駅前商店街にある文具店の一画に開設します。本学と山科駅前商店街とは、やましな駅前陶灯路等の催しを通じて以前より交流があり、このラボの開設をきっかけにさらに結びつきが強まることが期待されます。本キャンパスに比べるととても小さなスペースですが、交通アクセスの良さや人通りの多さを活かし、本学や山科区の魅力を発信する拠点となることを目指しています。

### 第８回 橘セッションの開催

2017 年３月には、「たちラボ山科」のお披露目イベントとして「第８回　橘セッション」を開催しました。本学学生、教員、地元住民、商店街や NPO 法人、外部団体など総勢 43 名が参加したこのイベントでは「ここでどんなことをやってみたいか、どんな場所にしたいか」というテーマでワークショップを行いました。各グループからは「さまざまな団体の出会いの場」「こどもの居場所」「学生と社会がつながる場所」「地域の高齢者の話をみんなで語り継ぐ場所」などたくさんの意見が寄せられ、「たちラボ山科」に対する地域からの期待の大きさを感じ取ることができました。

### 今後の展開

今後は地域連携に関心のある学生からなる委員会を立ち上げ、この委員会を中心に「たちラボ山科」の活用方法や具体的なイベント等を企画・実施していく予定です。加えて、学内外からのサテライト活用に関する希望を聞く機会を設け、積極的に取り入れたいと考えています。

地元山科に根ざした大学として地域に認知してもらえるよう、このサテライトをさまざまな用途に活用していきたいと思います。

「たちラボ山科」開所式の様子

橘セッション ワークショップの様子

橘セッションチラシ

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

救急救命学科主催イベント

# #つながるたちばな　健康爽快ウォーク 2016

健康科学部救急救命学科×文学部歴史学科学生

### “ 楽しい ” が “ 健康 ” につながるイベントをめざして

京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として地域の人たちを対象とした、「健康爽快ウォーク 2016」を企画・開催しました。コースは安朱小学校（山科区）をスタートし、大津港（滋賀県）をゴールとする全長約 7Km で、琵琶湖疏水沿いを歩きながら毘沙門堂や三井寺を経由するなど、地域の歴史や自然に触れられるイベント（コース）としました。また、学科の特徴を活かしイベントの始まりと終わりにメディカルチェックを行い参加者の健康意識を促したり、AED や応急手当の器材を持った学生が同行するなどして安全なイベント運営に努めました。さらに歴史学科の学生と教員がガイドを務めることでイベント全体を盛り上げ、歴史やものの由来を伝えることで地域の愛着と一層の理解を深めてもらいました。

### ねらい：予防と健康意識

本イベントの大きな目的は「病気の予防・健康増進」です。救急救命学科は救急救命士を養成する学科であり、蘇生のプロとして心肺蘇生のトレーニングや市民普及に力を入れています。しかし突然の心停止において最も重要なことは “ 予防 ” であり、普段の健康意識や心停止の予兆に気づき最悪の状況を回避することが大切です。今回のイベントは参加者が健康について考え、健康的な体づくりを意識するきっかけとして企画し、その副次効果として地域の魅力の再発見や学生との交流を通して活気ある町づくりにつながることを期待しています。

### 実施の様子と成果：学生の力を地域の活力に

当日は天候に恵まれ、ウォーキングにはちょうどいい気温と陽ざしのもと、参加者 51 名が安朱小学校をスタートし、ゴール地点の大津港を目指しました。紅葉のピークは過ぎていましたが、所々紅葉が残っていたり、地面に敷き詰められたもみじもまた風情があり、参加者の目を楽しませていました。ウォーキングに同行した学生は、救護要員としてイベントの安全に務めながらも、参加者との会話に花を咲かせながら非常に楽しい雰囲気でウォーキングしていました。

今回歴史学科の協力を得て、毘沙門堂や三井寺、琵琶湖疏水沿いの各スポットで歴史の説明を行いました。参加者は「なるほど～」とうなずく場面が多く、地域の歴史に触れ、その時代に思いを馳せるきっかけとなったのではないでしょうか。さらに、三井寺ではご住職により三井寺の成り立ちや特徴についてご高話を拝聴しました。その後に境内を拝観しましたが、歴史や由来を知ったうえで各スポットを拝観することができ、一層充実した時間にすることができました。

今回、多くの施設や団体のご協力を得てイベントを開催するに至りましたが、全員が事故や怪我、途中リタイヤすることなくゴールできたことは、非常に喜ばしいことです。救急救命学科が主催する初めてのイベントとして、安全な運営のもと、全員が笑顔で満足感をもってゴールできたことは、本イベントの目的である健康増進と地域の魅力の再発見、活気ある町づくりにつながる成果だと思います。

メディカルチェック（ゴール地点：大津港）

学生による歴史ガイド

# 山科ブランド農産物の知名度アップに関する活動

現代ビジネス学部経営学科 今井まりなゼミ学生

## 活動の概要と取り組みの経緯

今井ゼミ２回・３回生の 29 名は、地域資源の活用をつうじた山科地域の活性化へ向けた取り組みを行いました。地域資源は、①地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品、②地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術、③文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源として相当程度認識されているものの３タイプに分類されていますが、今回はその中でも、①に該当する、山科地域における農産物資源である、「京山科なす」「山科とうがらし」について、その認知度を向上させるためのチラシを作成し、配布しました。

## 活動内容

チラシの作成、配布に関する具体的なプロセスは以下のとおりです。

① 実際に「京山科なす」「山科とうがらし」を生産している農家の方々、ならびに漬物店など、農産物を加工している業者の方々へ聞き取り調査を行い、両農産物の特徴とその魅力を理解する

② 両農産物の認知度向上を目指す消費者層を限定した上で、その方々に対してアンケート調査を実施し認知度を調査する（ターゲットとなる消費者は、「京山科なす」：京都への観光客、「山科とうがらし」：山科地域で生活する地元の方々）

③ ①②を踏まえ、対象となる消費者の認知度を向上させるため、両農産物の特色やその歴史、利用方法などチラシのコンテンツを決定した

④ コンテンツ、レイアウトを決定したチラシの原案を作成し、印刷した

⑤ 印刷したチラシを、学生自身、ならびに漬物店などの協力を得て対象となる消費者にたいして配布した

## 活動成果

今回の取り組みを通じて、プロジェクト・チームのメンバーは、限られた時間の中で、チラシの作成という共通の目標に向かってチームで作業を行ってきました。この作業を行う中で、チームのメンバーは生産者や加工業者へのインタビュー、消費者に対するアンケート調査から、チラシのコンテンツの決定、さらにはその成果を、学生自らで配布するというという貴重な経験を積むことができました。チームでの課題解決の経験、ならびにチラシを作成する一連のプロセスを最後までやり抜いた経験は、学生にとってのなによりの財産となると考えています。

# 京都市事務事業評価サポーター制度への参加と表彰

現代ビジネス学部経営学科 阪本崇ゼミ×京都市役所

## この取り組みについて

京都市事務事業評価サポーター制度は、事務事業評価のプロセスに学生が参加し、学生の視点から評価票の改善や事業への提案を行うことで、事務事業評価制度の市民への浸透を図るとともに、その運用面での改善を意図したユニークな制度です。制度に参加する学生は、事務事業評価に関する学習を経たうえで、取り上げたい事業として選んだ複数の事業について担当課からヒアリングを行います。そのうちのいくつかを選んで事務事業評価票と事業自体の検討を行い、その結果について 12 月に行われる第 2 回事務事業評価委員会でプレゼンテーションを行いました。

## 取り組みの経緯や狙い

現代ビジネス学部現代マネジメント学科・阪本ゼミでは、2015 年度より 2 年続けてこの制度に参加させていただいています。公共経営やその関連分野の場合、大学内の授業では、カリキュラム上の制約もあって、どうしても理論や制度の学習に偏りがちで、実際の公共部門の仕事に触れることはなかなか困難です。そのため、実際の公共部門について知ることに加え、それを市民の目から評価するという視点を養うことを狙い、この制度に参加しました。

## 2016 年度の成果や実績など

本年度は 15 名の学生がこの事業に参加し、合計 10 の事業について担当課からヒアリングを行った上で、2 つのグループに分かれて、「野生鳥獣による生活環境被害防止対策及び自主防除組織支援対策」「ＤＶ対策事業」の 2 つの事業をとりあげました。専門演習Ⅱの時間を利用して、評価票の改善と事業への提案という 2 つの点について検討を行い、その結果についてスライド資料を作成し、12 月 27 日の第 2 回事務事業評価委員会でプレゼンテーションを行いました。その内容と、発表の技術については事務事業委員会の先生方から高く評価されました。また、参加した学生たちも、自治体の仕事について知ることが多かったという感想を述べており、制度への参加の狙いは達成されたといえます。

なお、昨年度は、18 名の学生が 3 つの事業について、事務事業評価票についての指摘と事業に関する提案を行いましたが、この取組が評価され、10 月 15 日に開催された平成 28 年度京都市自治記念式典において、チームとしての本ゼミと、ゼミ代表として第 1 回事務事業評価委員会に参加した 2 名の学生が、「未来の京都まちづくり推進表彰（改革分野）」で表彰されることになりました。昨年度サポーター活動で中心的な役割を果たした学生のうちの一人は、卒業後、地方公務員として自治体で働くことが決まっており、サポーター活動での経験が活かされるのではないかと考えています。

# 音楽を通した交流―アウトリーチ活動

児童教育学科３回生 佐野仁美ゼミ

## アウトリーチ活動のはじまり

ゼミ生による保育園や小学校へのアウトリーチ活動をはじめて５年目になります。本年度は７月と 12 月に、ももの木子ども園（山科区）と京都市立東山泉小中学校（東山区）を訪問しました。３回生ゼミ生には児童コースと幼児コースの学生が混在しており、小学校実習でふれた子どもの就学前の姿や、逆に幼稚園を卒園した後どのような環境で育っていくのかを互いに知ることは、学生にとって貴重な機会になると考えています。子どもたちにとって季節を感じるイベントは大きな楽しみですので、七夕の季節、クリスマスの季節に訪問しました。初年度よりゼミ生全員が参加し、その延長線上で学内の合唱祭のオープニングにも自主的に演奏しています。

## 子どもたちとのふれあい

プログラムの構成および選曲はすべて学生で考えます。全員で力を合わせないと成立しないトーン・チャイムの演奏に加えて、今年度はホルン２重奏を通して金管楽器の魅力を紹介した後、子どもたちと一緒に好きな曲を歌ったり、現代的な音楽によるダンスを踊ったりしました。簡単な製作物を作って子どもたちに手渡すなど、初年度より子どもたちとのふれあいを大切にしています。

ももの木子ども園の副園長先生からは、「学生の皆さんのいきいきした表情、子どもたちの事を考えた楽しい企画、こころあたたまる演奏に、子どもたちも私たちもあっという間の楽しいひとときを過ごさせていただきました。『おにいさん、おねえさんがいっぱい来てくれて、歌をうたったよ』『体操したよ』『きれいな音やった』『あんな楽器はじめて見たよ』など、お迎えの時にはお家の方にも沢山お話ししていた子どもたちです。そして、お土産の折り紙も大事に持って帰りました。きっと、いつまでも子どもたちの心に残る楽しい思い出になったことと思います。これからも、このような学生の方々との交流の機会を頂ければと思います」とのお手紙をいただきました。

2016 年 12 月の京都市立東山小中学校（西校舎）土曜学級におけるトーン・チャイムの演奏

## 学生の成長

学生は、普段知らない子ども園や小学校の様子を知り、子どもたちと親しく交わることによって、幼児から児童への発達のつながりを実感できた様子です。自分たちで編曲するなど、音楽的な力の他、トーン・チャイムを数音ずつ担当して旋律や和音を演奏するうちに、人に合わせる力が培われ、結果としてゼミの活性化にもつながったように思われます。さらに、練習計画や当日の役割分担などの立案、企画も自然に行えるようになりました。４月当初は受身の姿勢だった学生にも保育士や教員として必要な積極性が備わっていき、１年間の成長を実感しています。

現代的なリズムにのってダンス！

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

地域の人とのつながりが活動の支えに

# げん Kids ★ 応援隊

人間発達学部児童教育学会有志

### 山科・醍醐地域との交流は欠かせない

「げん kids ★応援隊」は、今年度で８年目になります。学生たちは、遊びや工作などを通して子どもや保護者との交流を深めるだけでなく、企画の運営にも携わり、その中で多くのことを学んでいます。

特に、今年度のげん kids の活動で目立ったことは、山科・醍醐を中心とした地域との交流でした。毎年のようにげん Kids の活動に声をかけてくださる団体との間で信頼関係が築けていることを強く感じています。

４月　勧修もちつき大会

５月　昔遊び企画（カルタ・けん玉・コマ回しなど）

６月　勧修小学校「第７回 おやじの会・学校キャンプ」

７月　水遊び企画（水風船・水鉄砲・シャボン玉・ヨーヨーつりなど）

９月　山科団地祭り、勧修社会福祉協議会ふれあいの集い

10 月　山科おやじフェスタ

11 月　スポーツ企画（ドッジボール、さまざまな鬼ごっこなど）

12 月　クリスマス企画（ツリー・リースの製作、クリスマスカードづくりなど）

水遊び企画

勧修小学校キャンプ

クリスマス企画

### 地域の人たちとのつながりが活動の励みになる

企画や運営では必ず目標を掲げて取り組むようにしています。今年度は、“来てくれた子どもたちがまた来たいと思えるような活動にしよう”をスローガンにしました。学生たちが満足していることは、同じ子どもと何回か会えるチャンスがあることです。子どもの成長を感じることができるだけでなく、子どもとの心の距離が縮まっていくのを実感できるからです。また、保護者の方との関わりも彼らの大きな支えとなっています。

企画後のアンケートに書かれたあたたかいメッセージを読み、次の企画も頑張ろうと思うことが何度もあると聞きます。もちろん、活動をするにあたっては楽しいことばかりではなく、面倒なことやうまくいかないこともたくさんあります。しかし、地域の人たちとのつながりが彼らの活動の励みになっているのは間違いありません。

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

地域の障害者と自立支援の NPO と芸術家との協働文化プロデュース活動

# 「めくるめく紙芝居」プロジェクトの取り組み

京都橘大学×障害者のグループ+ NPO 法人わくわく+一般市民+アーティスト+
山科青少年活動センター

### 見たことのない芸術をアーティストも学生も同じ場に集い障害者とともに生み出す

山科に拠点を持つグループホームなどを運営する障害者自立支援 NPO メンバーな初めとする市民と京都橘大学の院生、学生、教員、そして、美術家、陶芸家、詩人、舞踊家、音楽家、紙芝居士など多様なアーティストが緩やかに集まり、何をしても自由な文化的な居場所を創るのが、このめくるめく紙芝居です。つまり見たことのない芸術をアーティストも学生も同じ場に集い障害者とともに生み出し、社会の隠された課題の発見、まだまだ世界は未知に満ちていることを発見することがねらいです。

2005 年からまちかど紙芝居として開始し、その発展系として、「めくるめく紙芝居」と名付け、主に山科青少年活動センターと NPO 法人わくわくのスペースにて月に 1 度ぐらい集まり、絵を描いたり、ユニークな美術ワークショップや日常の仕草からの振付け創作、紙だけでない「お芝居」などをその都度作り、最近は、山科青少年活動センターの年に一度のおまつり（やませいあえるフェスタ。2016 年は 11 月 7 日 ）に発表したり、特別なワークショップをしています。

### 学生が、障害者やアーティストなどと交流し、新たな価値、世界感に気づくこと

今年は春から、障害者の一人が「アルプスの少女ハイジ」をお芝居としてやってみたいと言うことで、学生たちもそれが何なのか、最初は分からなかったみたいですが、ここでは、替え歌的に山科に世界を転換し、どんどん新しいストーリーや表現を入れていくことに楽しんで関わってくれました。

やませいあえるフェスタ当日は、ワークショップ中心になりましたが、イベントデザイン論受講者たちも加わり、障害者と子供たちと一緒に絵を描いたり、展示したりして、振り返りの中でも、イベントの多様性に気づいたという感想や障害者の世界を少し理解できたなどと話していました。

# 地域連携 PBL 公務編

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 小辻寿規助教×山科区役所×㈱ビバ

## 学生たちが行政課題に協働で取り組む

地域連携 PBL 公務編においては、行政や京都市の公営施設の指定管理者と協働で、イベントや施設運営、まちづくり活動などの課題解決の取り組みを実施しました。2016 年度からはじまった本講座の主な取り組みは、山科区役所と連携した「やましな GOGO カフェ活性化プラン提案」、京都市のスポーツ施設の指定管理者であるビバ・オリックスグループの代表である株式会社ビバと連携した「東野公園利用促進プロジェクト」および「山科醍醐ウォーキングマップ作成プロジェクト」となりました。

## 学生たちが市民目線で考え行動する

本講座の連携先から求められたことは、市民目線の意見とその解決策および取り組みでした。「やましな GOGO カフェ活性化プラン提案」では、まちづくりカフェの一つであるやましな GOGO カフェにおいて、学生たちが実際に参加し、利用者のニーズや現状の PR 課題などを分析し、改善案の提案を行いました。また、受講生の一部はその後、やましな GOGO カフェの運営者として参画し、提案の実践を行なっています。「東野公園利用促進プロジェクト」では、実際に学生たちが何度も東野公園を訪問し、どうしたら利用したくなるかを考え、利用者のイメージを良くしようという結論にいたりました。利用者のイメージを良くする案として、学生たちが剥がれていた壁をペンキで補修した他、清掃活動を行いました。「山科醍醐ウォーキングマップ作成プロジェクト」においては、学生たちが、実際に山科区や伏見区醍醐地域を歩き、ウォーキングを楽しめるルート選定や、ルート上にある一息つけるお店を選定しました。

## これからの市民参加のあり方を考える

京都市では、協働の精神に基づいた市民参加を「京都市市民参加推進条例」でうたい推進しています。本講座は、学生たちに市民参加を実践してもらい、行政や企業および地域住民等の想いを知り、協働のまちづくりを能動的に学ぶ機会となりました。次年度以降も引き続き協働を実践し、卒業後も地域での活動を行いたいという学生たちも出てきました。

やましな GOGO カフェでの発表

東野公園でのペンキ塗り

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

まち歩きで見つけたこだわりの店を紹介する

# 「こだわり市場」（小冊子および Web）の制作

現代ビジネス学部 谷口知司ゼミ学生

### 学生目線でこだわりの店を見つけ広く紹介する

京都には、あまり知られていない名店がたくさんあるので、それを観光客の皆さんに知らせたい。そういう素朴な学生たちの思いから、この活動が始まりました。その時にお店を探していく尺度としたのが、お店の「こだわり」です。

この活動は、現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の谷口知司教授のゼミで観光学を学ぶ学生を中心に、学生学会ツーリズム研究会の活動として行われています。

京都に来た観光客に、こだわりの名店を知ってもらうことで、京都の地域活性化につなげることを目的に活動しています。

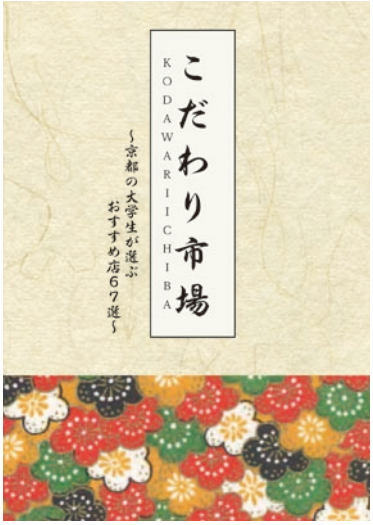
### 小冊子と Web で情報発信

学生たちが、まち歩きをしながら見つけた「こだわり」の店の最初の公開は、2009 年に『こだわり市場』のサイト（http://www. kodawari-ichiba.net/）を制作したことから始まっています。2013 年 11 月に、小冊子『こだわり市場』の一冊目に続き、2015 年 4 月に二冊目、2016 年 4 月に三冊目を発刊しました。これらの冊子は京都総合観光案内所（愛称：京なび）や京都の有名ホテルで配布されました。また朝日新聞や京都新聞でも紹介されています。

### Web のリニューアルと「こだわり」の冊子の完成

「こだわり市場」の活動は、上回生から下回生へと引き継がれています。今年度の活動の重点は、今まで先輩たちが集めてきたお店を、より魅力的に紹介する方法の開発です。Web はゼミの先輩が代表をつとめる会社の協力を得て、学生たちの意見を取り入れたものにリニューアルしました。

小冊子『こだわり市場』の四冊目は、今までの先輩たちが集めてきたこだわりのお店を一つの冊子にして発刊しました。今までのものに掲載されたお店を再度取材し、お店の方々と内容を検討し直し、また今までデザイナーに任せていた版下作成まで自分たちで行った、まさしく学生たちの「こだわり」が完成しました。



## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

看護お助け隊 in 醍醐中山団地（プライマリケア実習Ⅰ）

# 高齢者の家庭に訪問し生活を学ぶ実習

### 地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっています。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画しました。

醍醐中山団地は高齢化に伴い独居高齢者率も高く 4 階建ての団地にはエレベーターは設置されていないため、粗大ごみの搬出が容易ではありません。また部屋の模様替えや、風呂場や台所回りの掃除など、生活上の様々な困りごとがあると考えました。それらの困りごとに対して学生の力を活用し解決するともに、日常生活の場が観ることができ、日々の生活の話を聞かせてもらえると考えました。

学生を受け入れてくれる住民にとっては、日々の生活上の困りごとが解決し、学生にとっては家庭に上がり日常生活を観させてもらえる貴重な学習となり、互いにメリットがあると考えました。

### 様々な生活の苦労を抱えた住民の家庭を訪問した学生の学び

今回の活動は 11 月 26 日（土）に 2 回生配当のプライマリケア実習Ⅰにて実施しました。

事前に棟長の方々を通じて実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は 23 世帯となり、1 世帯に学生 3 ～ 4 名を配置し、残りの学生は後方支援や集会場の掃除などを実施しました。作業を行いながら普段の買い物や食事など生活の様々な話をすることができました。学生が学びになったのはもちろんの事、普段若い人と話をする機会がなかった協力者にも、楽しい時間が過ごせたと喜んでいただけました。地域の住民も喜び学生の学びも得られる持続性のある看護学実習の方向性が導き出せたと思います。

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

学生企画による山科ガイドブック

# 『やましなっぷ』の研究開発

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 木下達文ゼミ

### 大学における共同プロジェクトの意味

都市環境デザイン学科の木下ゼミでは、毎年共同プロジェクトを実施しています。それは、集まったゼミ生がバラバラに行動するのではなく、一緒に行動し共通の成果を生み出すことで、達成感だけでなくそこにビジネス全般に関わる実践的な学びをして欲しいとこうことで実施しています。また、こうした活動を通じて、人と人とのコミュニケーションをしっかり考える機会ともなります。これまでにも、香り付きのリップクリームやオリジナル学生手帳の研究開発などを実施しました。

### 在学生の利便性を高めるためのツール

2016 年度の 4 回生は「もっと大学を便利にするためにどうしたらよいのか？」ということを突き詰めて考え、大学周辺の便利マップを作ったらどうかということから、マップだけでなくグルメガイドも含めた小冊子を作成しました。作成にあたっては、大学の「たちばなドリームチャレンジ」による支援をいただきながら、どのようなツールであれば人々が手にとってもらえるかを毎回検討しながら制作しています。また、冊子だけでなく、自分でオリジナルな地図を作れるアプリの開発も同時に行いました。

### 地域活性化についても期待

このガイドブックは、本学が立地する山科区、とくに椥辻駅周辺と山科駅周辺にあるのカフェやレストラン 11 店舗を学生自らが取材調査し、レイアウトデザインなどの編集まで行っています。この過程で、地域把握はもちろんのこと、ヒアリング調査や編集デザインなどの実践的な勉強をすることになります。とくに特徴的なのは、学生自らが様々なお店に行った中で選び出していること、レイアウトデザインをあえて統一せずお店毎にページに個性を持たせているところです。この冊子が地域に広がることによって、多くの学生が地域のお店を利用することにより、地域活性化へにつながることも期待できます。

# やましな駅前陶灯路・イベントPRと商品開発

京都橘大学×京都シティ開発㈱＋清水焼団地協同組合＋山科区役所＋
地元自治連合会＋山科区老人クラブ連合会＋駅前商店会＋京都市観光協会

## 清水焼で地域活性化

JR山科駅周辺で開催されるあかりイベント「やましな駅前陶灯路（とうとうろ）」は、2016年で9回目を迎えました。当日は、清水焼の器や切子グラス約2,000個にロウソクで火を灯し、地元・山科の「華（はな）」をテーマに光の路をつくりました。やましな駅前陶灯路は、本学をはじめ、京都シティ開発㈱、清水焼団地協同組合、山科区役所、地元自治連合会、山科区老人クラブ連合会、駅前商店街などが連携し、伝統産業の振興や地域の活性化に大きく貢献しています。

## 学生たちが「やましな駅前陶灯路」をPR

毎年、学生たちが運営に携わってきましたが、2016年度は「どうすれば、より多くの方々に参加してもらえるのか？」をテーマに様々なPR活動を行いました。その一つとして、学生が清水焼団地協同組合らと、一般の人が自宅でも陶灯路を楽しめるよう「清水焼陶灯器セット」を共同で研究開発し、165セットを完売しました。その他のPRとしては、動画の作成、SNSでの情報発信、スタンプラリー企画の実施などを行いました。結果、山科区を除く京都市内居住者の参加者のパーセンテージが9%から22%に増加しました。

## 学生たちにとっての新しいつながりづくり

参加学生たちにとっては、イベントPRや商品の研究開発などは、生まれて初めての経験でした。イベントPRに協力いただいた京都市観光協会や京都市産業観光局観光MICE推進室には京都市でのPR方法をご助言いただいた他、「清水焼陶灯器セット」を共同で研究開発した清水焼作家や京・和蝋燭メーカー（中村ローソク）、洋菓子店（スイス菓子ローヌ）、紙製品卸売業社（光栄紙工）らからは、商売の基本をご指導いただくなど、日頃の学びをどのように社会と関わり活かしていくのかを考える、またとない機会となりました。

次年度以降は、今回生まれた新しいつながりを活かし、より魅力的な陶灯路を開催できるよう準備していく予定です。

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

醍醐地区の高齢者を対象に

# みんないきいき幸齢教室

理学療法学科学生×地域連携センター醍醐中山団地分室

### 健康体操 ～幸せに歳をとりましょう～

「みんないきいき幸齢教室」は、理学療法学科の学生が主体となり、山科・醍醐地域の高齢者を対象にさまざまな健康体操を行っています。2015 年から始まり今年で 2 年目になります。

地域在住高齢者にとって、健康状態に問題がなく自立して暮らすことができる期間を示す健康寿命を長くして、今後寝たきりにならないようにすることが大切とされています。このような背景から、「みんないきいき幸齢教室」は転倒予防や認知症予防を目的に、体や頭を使った体操や脳トレなどを行いました。この取り組みによって、参加いただいた高齢者だけでなく、学生も含めて全員が笑顔でいきいきすることができました。

### 学年の枠を越えた取り組み

みんないきいき幸齢教室は、理学療法学科の先輩と後輩が一緒に取り組むことの出来る交流の場となっています。企画会議では、学年の枠にとらわれず意見を出し合い、全員でより良い活動になるように繰り返し話し合いを行いました。このような活動によって、下級生は今後の学習や実習に活かせる経験を積むことができました。また上級生にとっては、下級生の模範となる責任感をもった行動や振る舞いができるようになりました。

体操の様子

オセロを使用した脳トレ

先輩と後輩の繋がり

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

# 特許を活用した地域ビジネス創生 PBL ～「知財活用アイデア全国大会」を通じて～

京都橘大学＋京都産学公連携機構＋知財活用アイデア全国大会実行委員会＋地域企業

### 学生の成長、地域企業の商機、大企業の特許活用の「三方良し」をめざす

この取り組みは、「知財活用アイデア全国大会」への参加を軸とした、学生が様々な地域企業と関わりながら実地に学んでいく PBL（Project Based Learning）活動です。大会自体は、富士通株式会社等が提供する開放特許について、学生がそれを利用した商品アイデアを考え地域企業に提案し商品化を目指すもので、結果として特許を保有する大企業、新たな商品を開発できる地域中小企業、アイデアを考え企業と直接関わる学生、それぞれにベネフィットをもたらす仕組みといえます。

本学では学生有志による PBL の枠組みでこの大会に参加して 2 年目になりますが、企業との対話や討論、プレゼンテーションの論理性や技術など、学生の実践的能力や意欲を向上・育成することを目的にしています。

### 学生のアイデアは高評価

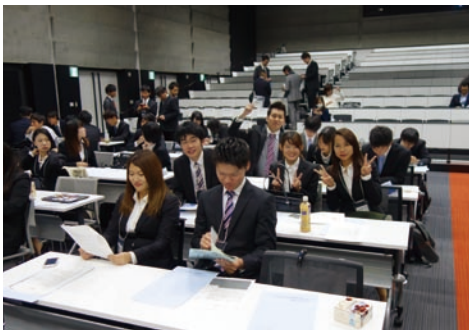
公募した経営学科の 2・3 回生計 12 人が、京都産学公連携機構を支援機関として大会にエントリーした上で 6 月より実質的な活動に入り、まず大会実行委員会により提示された特許について、3 つの商品アイデアを固めていきました。具体的には、① LED の光に埋め込むコード技術特許を用いた京都タワー周辺商店のイベント、②同特許を用いた結婚式場向けキャンドル＆イベント、③超指向性高音質スピーカー技術特許を用いたホテル向けスピーカー製品、これらを 4 人ずつの 3 班にてそれぞれ取り組みました。

2 度のブラッシュアップ会、計 20 回以上のミーティングで商品アイデアを練り込みました。さらに各班ごとの個別のミーティング、地域のメーカー、ホテル、広告代理店などに出向いてアイデアをプレゼンテーションしたり意見や情報をいただいて、商品アイデアをさらにブラッシュアップしていきました。

11 月 6 日のコンテスト関西大会においては惜しくも入賞は逃したものの、いずれのアイデアも上位の評価を受けており、また地域企業から直接のアプローチもいただき（全 3 件中 2 件は本学チーム）、大会後も対話が継続しています。

### 企業と向き合った実践的な学びと経験は、社会人に向けての大きな成長に

この活動を通じて、学生にはたいへん大きな成長がありました。①自分たちで意見を出し合いながらアイデアを練り込んでいく協業の実践、②より良いプレゼンテーション資料作りのための論理性習得、③ニーズを説得力あるものにするための業界・市場動向の調査、アンケート実施の方法習得、④企業訪問やそのアポ取りなど社会人的な実践活動やマナーの体験、⑤企業訪問、大会やブラッシュアップ会での緊張感の経験とその際の厳しい意見への耐性、これらの点で非常に教育的効果が大きいものです。今後実際に商品化が実現されれば、より地域の役に立てるでしょう。



いよいよこれから大会本番

大勢の人達の前で渾身のプレゼン

# たちばな健康相談

京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センター：健康支援事業

## 地域住民の健康支援を目指して

京都橘大学異文化交流・社会連携推進センターにおける健康支援事業では、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じで、その方々の健康を支援する』という目標のもと、種々の活動を行っており、その一環として『たちばな健康相談』を実施しています。たちばな健康相談は、看護学部開設当初から大学祭において実施しており、今年度で12回目となります。また、昨年度より大学内の活動に加えて、大学から地域へ出向いて活動する『出張たちばな健康相談』を実施しています。

## 第12回 たちばな健康相談・出張たちばな健康相談

たちばな健康相談は看護学部の教員および学生ボランティアの協力のもとに実施しています。第12回たちばな健康相談は大学祭期間に実施しており、身体計測（慎重、体重、腹囲、体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、ストレスチェック、塩分チェック、健康相談などを行いました。また、出張たちばな健康相談は伏見区醍醐地区の醍醐中山団地の集会場へ出張し、健康相談を実施いたしました。本学は、京都市および醍醐中山団地町内連合会と地域活性に寄与する取り組みを目的として、連携協定を締結しており、看護学部では地域住民の健康の保持および増進を目的として出張たちばな健康相談の活動を中心として展開しています。学内におけるたちばな健康相談に準じた内容を実施いたしました。

## 地域住民の意識と実践を通じた学生の学び

第12回たちばな健康相談・出張たちばな健康相談ともに多くの方に参加いただきました。継続して参加されている方々も多く、参加者へのアンケート結果では事業継続や学生ら若い世代との関わりに関する意見が聞かれ、健康支援活動ができたと感じています。また、学生ボランティアへも大いに刺激になっています。学生は参加者の誘導や各種測定等を行いながら、実際の地域住民と主体的に交流することで、地域で生活する人々に対する理解が深まり、実践を通じた対人関係の構築やコミュニケーション技術の獲得および向上の場となっています。また、学外の活動では、地域の実際を見ることにより、地域の様子や生活環境を踏まえて参加者の日々の生活を実際に理解することへつながり、健康増進に向けた具体的な支援を検討できる学びの場となっています。今後も地域住民の健康支援の観点から地域活性化に取り組み、同時に学生教育につながる事業を目指したいと考えます。

脳年齢の測定
（第12回 たちばな健康相談）

肩こり解消体操
（第12回 たちばな健康相談）

健康相談の様子
（出張たちばな健康相談）

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

グローカル人材開発センター提供 PBL プログラム

# 有限会社アイ工房の販路開拓案の立案に関する産学連携 PBL 活動

### 活動の概要と取り組みの経緯

経営学科の有志 12 名によりプロジェクト・チームを編成し、PBL (Project Based Learning) と呼ばれる活動を通じて販路開拓案の立案を行いました。

PBL とは「課題解決型学習」を意味しており、企業が抱える課題やプロジェクトに対し、学生が主体的にその解決策を考案・提案することで、課題解決力やコミュニケーション力、プレゼンテーション力など、実践的な力を身につける学習方法を指します。本 PBL では、「NPO 法人グローカル人材開発センター」の協力のもと、有限会社アイ工房 ( 以下、アイ工房 ) に対し、同社の商品の特徴を踏まえた新規販路開拓の提案を行いました。アイ工房は、西陣織を織る織機に使用される紋紙と LED を使った、環境に優しい「LED あんどん」を制作・販売している企業です。今回の PBL では、アイ工房の商品である「ぷち LED あんどん」を販売する際の販路開拓案を作成し、プレゼンテーションを通じて同社の代表である古田氏に開拓案の提案を行いました。

### 活動内容

PBL での具体的な販路開拓案の立案プロセスは、以下のとおりになります。

① 課題の把握：取り組みを始めるにあたり、古田代表へのヒアリング調査等を行うことをつうじて、「LED あんどん」の特徴や古田代表の考える課題を把握し共有しました。

② ターゲットの決定：その上で、今後新しい販路の開拓を模索する際にターゲットとなる消費者層について検討を行い、「高齢者」、「若者」、「外国人」という 3 つのカテゴリを主なターゲットとして決定しました。

③ アンケート調査をつうじた情報収集：ターゲットに対する「LED あんどん」の認知度を上げ、購買につなげるための方策を考えるにあたり、アンケート調査をつうじた情報収集を行い、当該消費者より回答を得ました。

④ 改善案の検討とコンテンツの作成：アンケートの回答と①で把握した現状を踏まえて、製品レベルならびにプロモーションに関する改善点の検討を行いました。また、上記の活動を通じて検討された販路開拓案に基づいて、プロモーションビデオの作成ならびに、アイ工房の取り組みをより明確に伝えるための HP の作成を行いました。

⑤ 報告会での報告：2016 年 12 月 19 月に行われた最終報告会において社長、技術顧問の前で上記の活動に関する報告をおこないました。

### 活動成果

今回の取り組みを通じて、プロジェクト・チームのメンバーは、限られた時間の中で、「販路開拓案の立案」という共通の目標に向かってチームで作業を行い、その成果を、社長をはじめとする実務家の前で報告し、意見交換を行う貴重な経験を積むことができました。チームでの課題解決の経験、ならびに販路開拓案を立案し、提案を行うまでの一連のプロセスを最後までやり抜いた経験は、学生にとってのなによりの財産となると考えています。

ホームページに掲載するための写真撮影

古田社長に技術の説明を受ける

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

今年度から始まった、地域文化ホールとの地域連携学習

# 「文化芸術による地域貢献プロジェクト」の活動

京都橘大学×京都市東部文化会館（公財 京都市音楽芸術文化振興財団）

### 地域に貢献するアーツマネジメントの現場を東部文化会館全体から学ぶ

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団と京都橘大学とは、2015 年 11 月に連携協定を結んだことを受けて、具体的に 2016 年度から、京都橘大学生のなかで文化プロデュースに興味のある学生たちを募り、「文化芸術による地域貢献プロジェクト」が始まりました。最初は、学生たちが最も興味を持っているバックステージ体験（舞台技術、照明技術、音響技術の基本的な技能体験）をさせてもらい、学生たちはまずこれにわくわくして、そのあとの地域課題研究へと進むという形になりました。

ここでは、現在、文化芸術による地域貢献をどのように東部文化会館のスタッフさんたちが試みているのかをまず学ぶとともに、学生たちが気づいた芸術文化がいかに地域に関わりあえるのか、そのためにはどのような問題があり、それを解決するために大事なことは何かということなどを、実際の東部文化会館のアウトリーチプロジェクトに参加したり、合唱フェスティバルの公演マネジメントを体験するなかで、気づき、それを発表するというプログラムです。

### 山科醍醐地域の音楽活動の現状にまず学生は驚き、身近なイベント企画の大切さに気づく

東部文化会館の多様な芸術プログラムの中で、特に、合唱フェスティバルを取り上げ、山科醍醐地域は小学校、中学校、高校、そして社会人（ママさんコーラスなどを含む）と世代をつなぐ合唱コーラス文化があることに学生は気づいたようです。しかしながら、社会人コーラスグループはほとんどすべての団体で高齢化が進み、子供たちも少し合唱に取り組むことが減少してきたようです。この課題を考えることがまず一つありました。

もう一つは、こまめに文化会館から地域に出て、福祉や教育、自治会などと音楽などの芸術表現グループをマッチングする「アウトリーチ活動」をここ東部文化会館はとても熱心にしているので、その現場も数カ所学生たちは体験しました。これはもちろんアーツマネジメント学習としてでもありますが、地域の多様な施設、団体を知り、その特質、何を大事にしているかという公共政策的気づきに繋がったようで、これも大きな収穫でした。

また、東部文化会館としても、学生たちが、コーラスグループの実行委員会を熱心に傍聴してくれていることで、いつもよりも活発な意見交換になり、とても収穫があった、これからも続けていきたいと企画担当の副館長が話してくれました。次年度はより工夫してしようと話し合っています。

# 「日常生活から見つけた京都文化の発信・体験プラン」コンテスト最優秀賞受賞

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 金武創ゼミ

## コンテストの概要

「日常生活から見つけた京都文化の発信・体験プラン」コンテストは、日常生活から見つけた京都文化の発信・体験プランを競います。旅行者には見つけにくい京都文化のうち、歴史的な建造物、生活文化、芸術、伝統芸能、伝統工芸の５分野から地元大学生たちが現地フィールドワークの成果をふまえて、日本国内・世界へ発信します。コンテスト応募総数が 24 チームのうち、ポスターディスカッション出場チームが 12 チーム（金武ゼミ A も出場）、1 月 15 日に大江能楽堂で実施された本選公開プレゼンテーション出場チームは 5 チームでした。

本選に出場した金武ゼミ B チームは『日本の「BENTO」で Let's 和サンドウィッチ作り♪』をプレゼンし、最優秀賞を獲得しました。これは日本の弁当箱文化を世界に発信する弁当箱専門店 Bento & co.（京都市）と農業体験施設「氷室の里」〈南丹市〉の魅力を京都のパン文化＝サンドイッチ作りで結びつけるものです。単純な観光企画ではなく、学生が新たな京都の魅力を発見し文化体験プランにアレンジしていくプロセスの部分を高く評価されたのではないでしょうか。

## 取り組みの経緯

2016 年 9 月末に募集開始したコンテスト出場を年度当初から目指したわけではありません。毎年取り組んできた 2 つのプロジェクトの発展課題として軽い気持ちで挑戦しただけです。「京都観光と文化経済」を学習する金武ゼミでは、アクティブ・ラーニングと座学を組み合わせて学んでいます。本コンテストで高い評価を得ることができたのは、応募直前に取り組んだ 2 つのプロジェクトの成果でもあります。

一つは平成 24 年度から継続してきた ㈱らくたび代表の若村氏による「観光ガイド実習」です。毎年 10 カ所以上の寺社仏閣を訪問し人前で話す経験は、パワーポイントによる無機質なプレゼンとは全く異なります。地域文化資源の魅力を発見し伝えるこの取り組みを通して、学生一人ひとりのコミュニケーション能力を高めることができました。

もう一つは「第 12 回京都から発信する政策交流大会」における研究報告です。この研究報告についても毎年ゼミ学生が共同研究や卒業論文を発表してきました。今年度はゼミ 3 回生 3 グループが京都市内の観光案内所が抱える構造的な問題を大きなテーマと定めました。そして、先輩からの指導助言を参考に、市内各地の観光案内所を訪問し、地域文化資源の掘り起こしや外国人旅行者への医療情報提供、京都市南部の観光問題について調べることができました。

ポスターディスカッション部門に
参加した金武ゼミ A チーム

本選で最優秀賞を受けた金武ゼミ B チーム
（中央下段着物女性 5 名）

## 京都市地域を対象とした活動（「学まち連携大学」促進事業）

# 京の七夕でのオリジナルうちわ配布、書道部による短冊

京都橘大学＋書道部学生×京都市×堀川と堀川通りを美しくする会

### 京の七夕とは

京の七夕とは、「一年に一度、願いごとをする」という古くから伝わる七夕の節句の意義や云われを見つめ直し、その伝統を引き継ぎつつ、伝統産業や、和装の振興などの観点も含めた京都ならではの現代版・七夕まつりとして開催されるものです。

8 月の開催期間中、堀川・鴨川の 2 会場を中心にライトアップや光の友禅流し、メッセージ行灯などの取組が行われるほか、民間事業者・市民団体・大学などが七夕に関連したブースを出展しています。平成 28 年度からは新たに北野天満宮・二条城・梅小路公園・岡崎・京都府立植物園の 5 会場が加わりました。

本学は、今年度「堀川と堀川通りを美しくする会」と連携し、堀川会場にブースを設け、参加しました。

### 本学の取組

今年度、本学からは書道部の学生が参加しました。本学ブースでは、短冊を用意し、ブースを訪れた来場者には願いごとを書いてもらい、書道部が描いた笹の絵に貼り付けるワークショップを行いました。また、希望する方には学生による短冊の代筆も行いました。

ブースには、家族連れ、カップル、外国人など、さまざまな方が訪れ、「大学で友達ができますように」「家族みんなが幸せに暮らせますように」などの願いが短冊に書かれました。小さな子どもたちも、初めての毛筆体験でとても楽しそうにしていました。

また短冊に加え、京都橘大学オリジナル竹うちわを作成し配布しました。このうちわも来場者にとても好評で、3000 本用意したうちわが全てなくなりました。

### 活動を通じての成長

本学書道部は、毎年「全国高校大学書道展」で大賞を受賞するなど、優秀な成績をおさめていますが、このような一般の方たちとのワークショップは初めてでした。

はじめはブースの中で来場者を待っていた学生でしたが、来場者が少ないことを受けて、机の場所や展示物のレイアウトを変更するなど工夫し、来場者が入りやすい雰囲気に作り替えました。最終的にはブースを飛び出し、積極的に呼び込みやうちわの配布を行うようになるなど、自分たちで課題に気づき、改善策を考え、行動する様子からは、学生たちの成長が確認できました。

## その他の京都市地域を対象とした教育活動（「学まち連携大学」促進事業）一覧

| 学部 | 学科 | 科目名 | クラス | 担当 | 受講者数 | 対象地域<br>または実施場所 | 教育活動の内容（概要） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 日本語日本文学科 | 地域課題研究 | 1 回生<br>a～c | 野村幸一郎 | 50 名 | 岩屋神社 | 事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出 |
| 文学部 | 日本語日本文学科 | 地域課題研究 | 1 回生<br>a～c | 重松恵美 | 50 名 | 蹴上 | 事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出 |
| 文学部 | 日本語日本文学科 | 地域課題研究 | 1 回生<br>a～c | 林久美子 | 50 名 | 毘沙門堂 | 事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出 |
| 文学部 | 日本語日本文学科 | 地域課題研究 | 1 回生<br>a～c | 安達太郎 | 50 名 | 六波羅蜜寺 | 事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出 |
| 文学部 | 歴史学科 | 現代史講読Ⅱ | | 南　直人 | 20 名 | 京都国立博物館 | 歴史学の分野での全般的教養を身につけるため、現代史コースの２つのゼミの学生を引率して、京都国立博物館における常設展示を見学し、日本美術の名品を鑑賞した。（1 月 14 日） |
| 文学部 | 歴史学科 | 現代史基礎ゼミⅠ | a クラス＋b クラス | 南　直人 | 22 名 | 立命館大学平和ミュージアム | 立命館大学平和ミュージアムを見学して、日本及び世界の現代史の最重要テーマである戦争と平和の問題に関して考察を深めた。(7/18) |
| 文学部 | 歴史学科 | 地域課題研究 | 研究入門ゼミ a・d | 増渕　徹<br>小野　浩 | 32 名 | 八坂の塔・建仁寺・六波羅蜜寺など | 京都の歴史について理解を深めさせることを目的とし、左の地域を見学してもらった。見学に先立って学生にレジュメを作成してもらい、見学の後、今度はパワーポイントでスライドを作成してもらい、実地踏査の成果を報告してもらった。 |
| 文学部 | 歴史学科 | 地域課題研究 | 研究入門ゼミ b クラス＋e クラス | 高久嶺之介<br>松浦京子 | 36 名 | 琵琶湖疏水記念館・南禅寺・平安神宮など | 京都の歴史について理解を深めさせることを目的とし、左の地域を見学してもらった。見学に先立って学生にレジュメを作成してもらい、見学の後、今度はパワーポイントでスライドを作成してもらい、実地踏査の成果を報告してもらった。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 研究入門ゼミⅠⅡ | abc | 登谷伸宏 | 1 回生 | 山科 | 山科本願寺遺跡の見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 研究入門ゼミⅠⅡ | a | 登谷伸宏 | 1 回生 | 左京区 | 重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」の見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産基礎ゼミⅡ | c | 登谷伸宏 | 2 回生 | 東山区 | 方広寺・豊国神社・豊国廟の見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学演習Ⅰ | b | 登谷伸宏 | 3 回生 | 京都市上京区・北区 | 北野天満宮・大報恩寺・建勲神社・大徳寺の見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ | b | 有坂道子 | 12 名 | 京都市伏見区 | 醍醐寺および内海家（醍醐和泉町）所蔵文書を用いた古文書解読 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学基礎ゼミⅠ | b | 有坂道子 | 12 名 | 京都市内 | 細見美術館特別展見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学演習Ⅰ | d | 有坂道子 | 12 名 | 京都市内 | 京都国立博物館特別展見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学演習Ⅱ | d | 有坂道子 | 12 名 | 京都市内 | 京都国立博物館特別展見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 世界遺産ＰＢＬ（京カレッジ事業） | | 一瀬和夫 | 学部、大学院生 | 山科 | 醍醐寺の活動をパブリック化する |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産調査実習 | | 一瀬和夫 | 学部、大学院生 | 山科 | 地域の調査研究者と山科・小山石切丁場の踏査と測量 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 地域課題研究 | | 倉持祐二他 | 学科<br>1 回生<br>全員 | 山科、醍醐 | オリエンテーションとして、山科地域でのボランティア活動例を紹介し、興味のあるボランティア活動に参加することを勧めた（1 コマ）。その後、山科ナス農家、山科砥の粉工場長、山科青少年活動センターのユースワーカーの３名による講演を実施し、山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業など多面的にとらえるきっかけとした（3 コマ）。その後、グループワークを行い（2 コマ）、最後にプレゼンテーションを行った（2 コマ）。発表テーマは保育園・幼稚園等での継続的活動、青少年キャンプのリーダーとしての活動、地域の小学校での運動会ボランティア、ちびっこランドの活動などであった。 |

| 学部 | 学科 | 科目名 | クラス | 担当 | 受講者数 | 対象地域<br>または実施場所 | 教育活動の内容（概要） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | フィールドワーク運動会 | | 小寺隆幸他 | 児童コース<br>1 回生 | 山科その他 | 山科・醍醐地域の小学校、あるいは自分の出身校の運動会の取り組みを観察し協力する。9 月はじめの練習段階から授業を見学させていただき、運動会当日は終日、教師のサポートとして協力する。その成果の一部は「地域課題研究」で発表。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 学校・地域調査<br>[ 国内 ] Ⅰ | | 小寺隆幸他 | 児童コース<br>2 回生 | 山科その他 | 小学校フィールドワークとして、4 月から翌年 2 月まで、1 年間にわたって週 1 回山科地域の小学校や自分の出身校を訪問し、授業を参観しつつ、個々の子どもの学習支援を行う。当該科目にて、各自の経験を交流した。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 学校・地域調査<br>[ 国内 ] Ⅰ | | 森本美絵 | 幼児コース<br>2 回生 | 山科その他 | 30 名の学生が受講した。半期を通して、同じ保育所や幼稚園等に、ボランティア等に出かけ、実際の現場の雰囲気や子どもの成長する姿をメモることを課題とした。演習では、5 人程度のグループに分かれ、メモをもとに印象に残った子どもの様子について意見交流し、クラス全体への発表、それらを踏まえてレポートを作成させた。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 基礎演習ゼミ | | 池田　修 | 2 回生<br>池田ゼミ生 | 京都府全域 | 二回生ゼミで「京加留多の取り札を作る」という試みをした。京加留多の読み札の連続型テキストをもとに、取り札 48 枚の絵の部分を写真で表現。また、この授業は、日本デジタル教科書学会で発表し、本学の今年度の紀要に収めた。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 教育演習Ⅰ | | 佐野仁美 | 3 回生<br>佐野ゼミ生 | 山科 | 音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、7 月に 1 回もの木こども園（山科区）の七夕会にて訪問演奏 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 教育演習Ⅱ | | 佐野仁美 | 3 回生<br>佐野ゼミ生 | 京都市東山区 | 音楽に関心を持つ学生の集まる佐野ゼミの活動の一環として、12 月に 1 回京都市立東山泉小学校（東山区）の土曜学級にて訪問演奏 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 国語科教育法 1 | | 池田　修 | 3 回生<br>25 名 | 京都府全域 | 地元にある文学作品の舞台を訪れて調査報告するという課題を実施。 |
| 人間発達学部 | 英語コミュニケーション学科 | 地域課題研究 | 1 回生<br>全員対象 | アンガス , ノーマン他 | 63 名 | 山科、醍醐地域 | 山科ナス農家、山科砥の粉工場長、山科青少年活動センターのユースワーカーの3名による講演会によって山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業など多面的にとらえるきっかけをつくった。その後、グループワークを経て（3 コマ）、グループ毎に原則として英語によるプレゼンテーションを行った。主たるテーマは観光、イベント、グルメに限定し、外国からの観光客や山科地区に滞在している外国人を想定して、名所を紹介するものであった。 |
| 人間発達学部 | 英語コミュニケーション学科 | Community Translation Program | 2 回生<br>必修プログラム 3 つの中の 1 つ | アンガス , ノーマン | 18 名 | 山科地域 | 留学に参加しない学生の国内プログラムである。独自の 3 科目からできている：CTP の入門講座である「多文化理解プログラム講座 II」、さまざまな分野の CT の翻訳練習「多文化理解プログラム演習」と PBL 授業である「グローバルビジネス II」。最終的に学生が山科のコミュニティーの国際化に貢献できるように学生各自の翻訳計画を立て、フィールドワークを行う。その後、計画を発表し、来年出版する予定の「山科英語ガイド」（「学まち連携大学」の補助金対処）の準備をする。計画内容は、観光、エベント、グルメ、生活情報、交通、スポーツ設備など外国人の観光客および留学生、滞在者のための情報である。 |
| 人間発達学部 | 英語コミュニケーション学科 | 児童英語教育研究 | | 金山　敬 | 18 名 | 京都学びの街生き方探求館 3 階「スチューデントシティ」 | 学生ボランティアとして「Kyoto Global Kids in スチューデントシティ」のイベントに参加。京都市内の小学校 6 年生 160 名を招き、外国人とのやり取りを手伝ったり、英語での交流を通じて、児童の生き方探求教育を援助した。 |
| 人間発達学部 | 英語コミュニケーション学科 | 児童英語教材研究 | | 金山　敬 | 20 名 | 京都市立大宅小学校 | 小学 4 年生、5 年生、6 年生の英語活動の授業を数回に渡り見学実習し、小学生にどのように英語を慣れ親しませるかを学ぶ。 |
| 人間発達学部 | 英語コミュニケーション学科 | 児童英語教育指導演習Ⅱ | | 金山　敬 | 20 名 | 京都市立大宅小学校 | 小学 2 年生の 4 クラスにて学生たちがグループに分かれて 6 つのエプロンシアターを演じた。子どもたちの情操や言語面に今までとは異なる豊かな刺激を与え、子どもたちの発達を促す可能性を模索した。 |

| 学部 | 学科 | 科目名 | クラス | 担当 | 受講者数 | 対象地域<br>または実施場所 | 教育活動の内容（概要） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | まちづくり論 | | 小辻寿規 | 25 | 朱雀二条商店街振興組合 | 朱雀二条商店街振興組合に対して夏祭りの企画発表を行い、8月6日に開催された夏祭りにはボランティアとして参加し運営の協力を行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 地域課題研究 | | 小辻寿規 | 約140名 | 京都市 | 京焼・清水焼焼卸業社社長や京都市観光協会事務局長をお招きし、京都市の文化や観光について学修した。 |
| 看護学部 | 看護学科 | プライマリケア実習Ⅰ | | 堀　妙子<br>深山つかさ | 2回生<br>111名 | 本学中央体育館 | 山科区老人クラブ連合会の会員の方を対象に、2回生が「体力測定」を行った。4回生有志（深山・望月・野島・松本ゼミ学生）が健康教育を実施した。127名に参加協力いただいた。 |
| 看護学部 | 看護学科 | プライマリケア実習Ⅱ | | 深山つかさ | 3回生<br>82名 | 山科区老人クラブ連合会の会員宅 | 山科区老人クラブ連合会の女性委員に協力いただき、会員の中の一人暮らし高齢者の方への同行訪問を行っている。訪問先高齢者は、学生のプライマリファミリーとなっていただき、学生は2回生後期から3回生前期にかけて、2回の訪問を実施している。 |

# Ⅳ
# その他の地域連携型教育プログラム

## その他の地域連携型教育プログラム

～世界遺産醍醐寺の原点である上醍醐の魅力を伝えるマップ・パンフレットの提案～

大学コンソーシアム京都

# 京都世界遺産 PBL（醍醐山道ほとけ手帳の製作）

醍醐寺×京都橘大学チーム上醍醐×公益財団法人大学コンソーシアム京都×
明日の京都・文化遺産プラットフォーム

### 世界遺産醍醐寺の根源である上醍醐の魅力を知ってもらう

遺産情報演習Ⅰの授業として、世界遺産醍醐寺と組んで上醍醐の魅力をパブリック化する試みを行いました。

醍醐寺には上醍醐と下醍醐があり、上醍醐は醍醐寺はじまりの地とも言われています。下醍醐では、京都最古の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂があります。また、上醍醐にも、平安時代～桃山時代にかけての数々のお堂、仏像などがあります。さらに、醍醐寺発祥の地としての「醍醐水」があるのも上醍醐です。残念ながら、度重なる火災などで、文化財の保存の観点から下醍醐の霊宝館や平成館へ移動する仏像など多いのが現状です。また、上醍醐までの登山道は修験道のため、頂上まで行くためには険しい道を登らなくてはいけません。「どうしたら上醍醐へ楽しく登ってもらえるだろうか」ということを目標に、上醍醐登山道から伽藍、仏像、奥の院などを調査し、原所在地がどこなのか一目でわかる、下醍醐の仏像館なども合わせて楽しめるようなマップ・パンフレット作成に取り組みました。

### 提案のかたち

上醍醐に親しみをもってもらうために、参道にそってある 38 ある町石についての「上醍醐登山ナビマップ」や町石にともなった「町石ほとけ手帳」を作成することで、子どもたちから年配の方々までの多くの人に登っていただこうと考えました。その作成過程において、醍醐寺のイベント参加の子どもたちや大人にご意見をいただき工夫を重ねました。試作品を通じて、いろいろなコミュニケーションが生まれ、学生たち自身には得るものがたくさんありました。

なかでも上醍醐参拝者の方に、参拝道を何か「想い」を持って歩いていただこうと考えて、醍醐寺の「町石」に注目しました。「町石」は、道のりを示すもので、一町ごとに置かれています。この醍醐寺の「町石」は、女人堂から上醍醐にかけて、醍醐寺重要文化財の弘安八（1285）年に石灯籠とともに同時期に造立されたもので、すべてで 38 本あります。各「町石」には仏尊名が刻まれ、おおむね金剛界 37 尊と対応します。この参拝道を「巡礼」してもらいやすくしようと、内容をまとめたものが「ほとけ手帳」と「上醍醐登山マップ」です。

「ほとけ手帳」は、「町石」についての解説と仏図像を掲載しています。「上醍醐登山ナビマップ」は、トイレ・ベンチ他、様々な見どころ、到達時間、難所なども掲載して、配色などにも気を配りました。また、上醍醐の建物と仏像の関係の歴史がわかりやすいように、「上醍醐年表」などを掲載したパンフレットも作成しました。今、下醍醐の「霊宝館」「平成館」にある仏像は、上醍醐のどの建物にあったのか、消失してしまっている建物は、いつの時代まで残っていたのかなど、上醍醐の組合せ構成の変化がわかる内容です。

### つくられたかたちの今

まずは上醍醐に登る。そこに何があるかからはじまった活動でした。次ぎに、上醍醐に登る人はどのような人なのか、その行動観察やアンケート、ニーズのリサーチがありました。結果、町石ほとけ手帳、上醍醐登山ナビマップやパンフレットの必要性を感じ、その作成が試みられたのです。それらは、学生各自、担当がこつこつと何度も醍醐寺の方々と相談しながら足を運んだ成果であります。現段階では、その試みの原初のかたちが世に出てきたにすぎません。学生たちは、その骨格を醍醐寺に訪れた人に見てもらい、意見をもらいました。まだまだ、親しみやすい「ほとけ」のキャッチコピーや属性毎の色使いへの検討など、課題は山積みです。天候の不順もあって、成果品の使用体験の行動観察はなしえていません。この活動は学生にとって、今はじまったばかりと言えましょう。

ほとけ手帳マップ

## その他の地域連携型教育プログラム

「大津市老人クラブ連合会との連携事業」の活動

# 高齢者の力をかりて学ぶ看護学実習

看護学部看護学科教員＋学生×大津市老人クラブ連合会

### 大津市老人クラブ連合会との連携活動の経緯

大津市老人クラブ連合会との連携活動は、2014 年から始まりました。初めは、看護学科の教員が、老人クラブが大津市内４カ所で年に１回開催されている体力測定記録会に参加し、運営のサポートを行うとともに、この体力測定記録会の結果を分析し、老人クラブの健康増進活動に参加するといった活動が主な活動でした。2015 年になると体力測定記録会の運営サポートを本格的に行う事となり、学生がボランティアとして参加するようになりました。学生が参加することで体力測定記録会に活気が見られ、参加された方にも好評であったため、2016 年度から看護学科の学生の教育の場としての連携事業が始まりました。

### 体力測定記録会に参加することによる学び

看護学科の１回生は、地域で生活するさまざまな発達段階の人々と関わりながら、成長発達・健康・生活・環境といった側面からその人々を理解することを目標とした「ライフサイクル論実習」という科目で、高齢者の方や乳幼児と関わるという実習をしています。この実習の一部として、大津市老人クラブ連合会が開催されている体力測定記録会に参加する事となりました。今年度は皇子が丘地区と瀬田地区の体力測定記録会に参加させて頂き、学生と参加された方がペアになり、体力測定を行いました。学生の参加が周知されていた事もあってか、参加人数が昨年度より増え、活気のある体力測定記録会となっていました。学生と参加者の方も会話も弾み、学生にとっては、高齢者の方の生活や健康に関し、様々な事を学ばせて頂く機会となりました。来年以後は参加する地域を増やし、実習内容の充実を図りたいと考えています。

６分間歩行の様子

### 高齢者の方を対象とした健康教育を行う事による学び

看護学科４回生になると、地域の政策や機能なども理解したうえで、地域で生活されている人々の健康課題を解決するための過程を理解する事を目標とした「プライマリケア実習Ⅲ」という科目の中で、様々な方を対象とした健康教育の実践を行う実習をしています。

この実習を、大津市老人クラブ連合会の女性部の方にご協力して頂き、行う事になりました。学生は５～６名のグループになり、高齢の女性の健康に関連する内容で健康教育の企画を行い、女性部の方に、健康教育を行わせて頂きました。今年度は２回に分けて５グループが、骨粗しょう症やロコモティブシンドローム、熱中症予防などに関して、お話をさせて頂いたり、実際に体を動かす運動を一緒にさせて頂くことをしました。参加して頂いた方は、学生の話を熱心に聞いて下さり、学生にとっても貴重な経験となりました。今後も、老人クラブの方々の健康の保持増進に学生が貢献できるよう、継続して行って行きたいと考えています。

骨粗しょう症に関する健康教育の様子

## その他の地域連携型教育プログラム

草津市における来街者調査の実施

# 「マーケティング調査演習」の取り組み

京都橘大学心理学科学生×草津市役所まちなか再生課×草津市まちづくり株式会社＋ニワタス＋近鉄百貨店草津店＋エルティ 932 ＋くさつ平和堂

### 心理学研究法（調査法）を用いた問題解決の実践

健康科学部心理学科では、３回生配当科目として「マーケティング調査演習」を開講しています。心理学は実証的研究分野ですが、調査法などの方法論を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。心理学科での勉学を卒業後の職務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目と考えています。

### 2016 年度の成果・実績

昨年度に引き続いて草津市において来街者調査を実施しました。ＪＲ草津駅東口エリアにおける商業施設４店舗（ニワタス、近鉄百貨店草津店、エルティ 932、くさつ平和堂）の来店者を対象とした来街者調査を実施しました。具体的な授業のスケジュールと内容は以下の通りです。

９月～ 10 月　①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習、②現地における情報収集（「草津市役所まちなか再生課」ご担当者様による講義、各店舗のご担当者様との打ち合わせ、調査場所の見学など）

11 月　①調査計画の立案と調査項目の作成、面接調査のトレーニング、②４店舗での調査実施

12 月～１月　①調査データの整理（コーディングと入力）、②統計分析ソフトウエアによるデータ分析、③レポートの作成

４店舗における調査により、各店舗の来店者計 265 名の方の面接調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の来店形態や来店目的など、②草津駅東口付近での立ち寄り箇所と購買品目、③買い物の不都合や希望するサービスなどでした。また各店舗からのご要望に応じて担当の学生たちが考案した質問紙も付加しました。

### 成果を広く人々に伝える

成果報告のために 2017 年２月 14 日に草津市において草津市役所関係の方々、各店舗の方々、受講学生、担当教員が出席して報告会が開催されました。また全体の結果をまとめた調査報告書を作成し、草津市役所および各店舗に提出しました。さらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。

商業施設「ニワタス」での面接調査風景

草津市で開催された報告会

## その他の地域連携型教育プログラム

心理学科　地域課題研究

# 野洲市における乳幼児との遊びを通しての交流体験と子育て支援の課題

健康科学部心理学科学生＋日比野英子教授×滋賀県野洲市

### 心理学科の「地域課題研究」

心理学科では、本年度「地域課題研究」（１年次配当科目）において、「地域で学ぶ、地域から学ぶ―地域課題を知り、その解決法を考える―」をテーマに、実際に地域振興や子育て支援などの活動を行い、①地域課題を見つける力、②地域課題の解決法を考える力の養成をめざしました。４つの活動プログラムのうちの一つ、「野洲市における乳幼児との遊びを通しての交流体験と子育て支援の課題」には、２日にわかれて 20 人の１年生と２人のＬＡ（先輩学生）が参加しました。

### 野洲市の子育て支援講座「子どもの発達」

野洲市の「子どもの健康づくり教室『子どもの発達』」は 20 年以上続いている子育て支援講座です。主に乳幼児の心の発達についてわかりやすく説明して、母親の理解を深め、育児への不安を緩和し、母子の豊かな交流を促して、子どもたちの健やかな発達を図るというねらいがあります。毎回、講演と母親同士のグループワークが実施されますが、最後の質問タイムには実に熱心で活発な質疑応答が展開されるのが特徴です。これには、京阪神のベッドタウンとして、或いは全国的企業の工場や事業所の所在という同市の実態が関係していると考えられます。若い夫婦の転入や出産が比較的多いのですが、近くで子育てについての質問に答えてくれる人、悩みを聴いてくれる人を得難いのです。

参加されるお母さんたちの感想は「はじめての子で、どうしたらよいのか不安だったのですが、子どもの気持ちがわかりました。」「しつけをいつから始めるのか、どんなやり方がよいのかがわかりました。」などで、子どもが生まれる度に参加されるリピーターも少なくありません。

### 学生たちが参加して

学生たちが子どもの遊び相手として参加したことについて、お母さん方からは「子どもがたくさん遊べて楽しそうにしていた。」「子どもを見てもらえて自分の時間がもてた。」など感謝のことばが寄せられました。

学生たちは初めての乳幼児との交流に戸惑いながらも、「こちらが緊張すると子どもたちも不安そうになる。」「よそ見しないで向き合うことが大事。」など、ことば以前のコミュニケーションについて体験的に学びました。また、母親たちの真剣に悩み考えて子育てしている姿に感服し、子育て支援の必要性を体感する機会となり、さらなる子育て支援活動へのモチベーションを高める機会となりました。

# 第3回 草津まちイルミでの取り組み

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科河野良平ゼミ

## ねらいと経緯

「草津まちイルミ」は草津市中心市街地活性化基本計画の一環で、JR 草津駅を中心とした東口・西口周辺の公共施設や商業施設にイルミネーションを灯すことで人々の行き来を促し、点から線のつながりを実現させ、まちの回遊性を高めようとするものです。昨年度より草津市中心市街地活性化協議会の方から打診があり、3 回生河野ゼミで照明を組み込んだオブジェを作ろうという話になりました。

## ゼミでの活動

今年度前期の 3 回生ゼミで照明を使ったアートやインテリアなどの事例を調査し、構想を練り始めました。草津市の方もゼミに参加して頂き、学生からいくつかの提案を出しました。町の東西をつなぐことや誰にでも馴染みのあるものとして、雲のオブジェを作ることになり、後期から制作に取りかかりました。ゼミで話をしていく中で、雲を複数作ることや雨や風などによって異なる表情の雲を作ることなどのアイデアが出てきました。設置場所や大きさは現地へ行って確認し、材料もホームセンターや 100 円ショップで探しました。

## 作品について

作品は角材で作った直方体のフレームに発泡スチロールの板を貼り付けて大まかなヴォリュームを出し、その周りに発泡スチロール製の箱や皿などをつけて雲らしい形になるよう工夫しました。さらに、その上から綿をくっつけていくことでフワッとした感じを出そうとしています。中は空洞なので照明を仕込み、電球の色や点滅する機能によって違いを出しました。雲は雨・風・雷の 3 種類を作り、照明以外にも透明なビーズで作った雨だれや風の動きが感じられるリボンを垂らしました。

## 学生について

普段は個人で設計作業に取り組むことの多い学生が、グループでの作業を通してアイデアを出し合ったり、お互いにコミュニケーションを取るなどしてなんとか作品を仕上げようとする様子が頼もしく感じられました。作品搬出の当日まで制作がずれ込みましたが、朝から自主的に来た学生たちがなんとか完成させました。また、後日現地へ様子を見に行き壊れたところを直してくれた学生もおり、自主性や積極性、責任感が強くなったように思われます。

試作製作中。相談しながら発泡スチロールの板を切り出しているところ。

現場にて設置作業中。光っているのが「雨」を表現したもの。向かって左が「雷」、右が「風」。

## その他の地域連携型教育プログラム

高齢者の健康づくり

# 高齢者の健康促進活動

健康科学部理学療法学科教員＋学生×野洲市在住高齢者

### 活動内容

2014 年度より滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として野洲市在住高齢者を対象に健康促進活動を行っています。今回で 3 年目となり、今年も高齢者の身体・認知・精神機能を調査しました。これらの結果は、野洲市在住高齢者の特徴を明らかにし、介護予防や転倒予防プログラムの基礎資料に役立てられています。

今年度は、246 名の高齢者に参加いただきました。参加者の内訳は、70 代が最も多く（53%）、性別では女性が 83%と大多数を占め、男性は 17%と少なかったです。なお、本年度の参加者 246 名のうち、2014 年、2015 年と 3 年連続で参加した方は 100 名、2015 年も参加した方（2014 年は不参加）は 37 名、2014 年も参加した方（2015 年は不参加）は 31 名、新規参加の高齢者は 78 名でした。

調査項目は、握力や足の筋力、バランス能力、柔軟性、歩行能力などの運動機能面に関する項目と、質問紙を用いた聞き取り方式で認知機能および精神心理機能を測定しました。また、調査結果は、当日中に返却し、対象者の年齢の全国平均と比較した結果について学生および教員で個別に説明を行いました。学生は、高齢者を測定することの難しさと、結果を解釈し説明をする難しさを学ぶことができました。

### たちばな健康体操

2014 年度、2015 年度の野洲市在住の高齢者の特徴として、バランス能力と体幹筋力が全国平均を下回っていました。この結果をもとに、学生と教員で協働し、「たちばな健康体操」の DVD を作成しました。そして、2016 年度では「たちばな健康体操」の説明会を 2 回実施し、約 120 名の方に参加いただきました。多くの方に興味を持っていただき、現在では複数のコミュニティで健康体操として実施いただき、評判も良好のようです。学生たちもヘルスプロモーションを実践できた良い機会となりました。

## その他の地域連携型教育プログラム

音楽をテーマとした守山のまちおこし

# ルシオール・アート・キッズ・フェスティバル

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科木下達文教授＋学生×滋賀県＋守山市

### 文化のないまちだった守山

「ルシオール・アート・キッズ・フェスティバル」プロジェクトの発端は、2011 年 1 月に守山市長選で 38 歳という若さで当選した宮本和宏市長が進める地域政策の一環でした。市長が目標としているのが、ヨーロッパで最も住みやすい都市として知られるフランス北西部の港町・ナント市です。たまたまそのナント市が発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ（熱狂の日）」が 2010 年よりびわ湖ホール（滋賀県大津市）で実施されており、その事業を守山でもできないかというのがそもそもの発端で、関連事業として始められましたた。都市環境デザイン学科の木下研究室では 2012 年の初回から事業の協力をしていて、音楽であふれるまち「守山」を目指しています。守山はこれまで教育政策には力を入れてきていましたが、こと文化政策という側面においては十分とは言い切れませんでした。つまり、これまでルシオールのような本格的な文化事業は行われてこなかったという経緯もあり、市の政策としては重要な柱となっています。

### ラ・フォル・ジュルネとルシオールの概要

そもそもラ・フォル・ジュルネとはフランス最大級のクラシック音楽祭で、「熱狂の日」と訳されています。創設は 1995 年で、毎年 1 月下旬から 2 月上旬にかけての 5 日間、朝から晩までナント国際会議場の各ホールを利用して多数の公演が催されるものです。これが大成功となり、その後、ポルトガル・リスボン、スペイン・ビルバオ、東京、金沢、新潟、大津、鳥栖、ブラジル・リオデジャネイロ、ポーランド・ワルシャワなど、世界各地に「ラ・フォル・ジュルネ」の輪が広がってきています。とくに、ルシオールではラ・フォル・ジュルネのコンセプトともに、「守山市の次代を担う子どもたちが上質な文化芸術と出会う機会の提供」および「文化芸術と教育に力を入れる上質な都市イメージの発信」という目的を設定しています。メイン会場を「守山市民ホール」とし、ここでは音楽芸術をメインとしたプログラムを展開し、サブ会場をホール隣の「立命館守山中学校・高等学校」とＪＲ守山駅周辺の「まちなか会場」としています。立命館では、教室等を利用し子どもたちが楽しめるアート体験プログラムを展開しています。

### イベントマネジメントを学ぶ学生たち

いたるところで音楽を気軽に楽しめる環境を設定するとともに、立命館守山会場ではいわゆる出前体験展示を多数用意する形をとっています。また中心市街地とジョイントすることで、まち全体が会場（展示空間）となり、音楽・美術・パフォーマンスが組み合わさったユニークな環境を創出したプロジェクトとなりました。大学で連携しているブースは立命館守山会場で、とくに子ども達に多くの体験をしてもらう場所です。お客さんの誘導から体験ブースの運営補助を 1 回生ゼミ生を中心に担い、自治体の行う文化事業を実践的に学ぶ場になっています。

# 京都橘大学・熊野再発見プロジェクトの活動について

現代ビジネス学部木下達文教授＋学生＋まちづくり研究会×
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

## 熊野再発見プロジェクトとは

本プロジェクトは、2014 年 10 月 2 日に和歌山県東牟婁郡那智勝浦町と京都橘大学とで観光・まちづくりに関連するひとつのミーティングが行われたことが契機となりました。それ以前にも文化政策学部創設時からの細々とした連携の歴史はありましたが、そのミーティングを契機として、2015 年度に入り本格的な地域連携を目指し、熊野地域を支援するためのプロジェクトを 2015 年 6 月 1 日に発足させたのが「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」です。熊野地域は世界遺産等を有しながらも、都心から遠距離に立地することもあり観光客の伸び悩みが深刻な上、2011 年の台風被害の影響でも大きな問題を抱えています。そこで、本学の地域連携事業の一環として熊野地域の観光や地域振興について協力をしていくこととし、具体的に現地に行くなどして、地域の魅力を発掘するなどをしながら、可能な範囲で地域再生の協力をしていくことを目的としています。

## 和歌山県および那智勝浦町との地域包括協定を締結

2015 年度より和歌山県那智勝浦町とくに観光協会を中心として京都橘大学との連携を進めてきましたが、年度末頃から本格的な町との地域包括協定に向けた話し合いを進めていました。その一環として、和歌山県が過疎対策の関係で展開している「大学のふるさと」事業とも連携することとなり、2016 年 6 月 3 日に、和歌山県知事立ち合いのもと、那智勝浦町と大学が地域課題の解決に向けた活動をする「大学のふるさと」協定を締結するに至りました。「京都橘大学・熊野再発見プロジェクト」では学生による地域診断や祭事事業の PR 協力などの活動を行っていますが、2016 年度以降はその連携の幅を広げ、この協定締結を記念した京都橘大学・那智勝浦町観光協会共催の「熊野学講座」を開催しました。今後は、同町内企業および観光協会と連携した単位認定型インターンシップの実施、さらには多くの学部学科の資源を利用しながら新たな取り組みを行い、地域振興に貢献していく予定をしています。

## 本年度の現地での活動

2016 年度の大きな活動としては、現地での地域診断およびその報告会が 8 月 6 日から 8 日にかけて行われました。本学学生が和歌山県那智勝浦町を訪問し、同地域の観光政策についての課題や改善策を提案しました。今回は、現代ビジネス学部木下達文教授のゼミ生および都市文化デザイン論受講生、まちづくり研究会メンバーら 48 人の学生が、グループに分かれ観光地などを視察し、最終日に行われた報告会では、同町の花井啓州町観光協会長や町観光産業課職員ら約 70 人が参加し、それぞれのグループがテーマに沿った報告を行いました。学生たちは、同地域のさまざまな観光資源や地元の人の温かい対応への感動を伝えるとともに、交通や外国人対応での改善など具体的な提案を行いました。自分たちが調べたことがそのままのまちの発展に直結するという真剣な場に挑みました。

## その他の地域連携型教育プログラムの実績一覧

| 学部 | 学科 | 科目名 | クラス | 担当 | 受講者数 | 対象地域<br>または実施場所 | 教育活動の内容（概要） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 歴史学科 | 地域課題研究 | 研究入門ゼミ<br>c・f | 尾下成敏<br>王　衛明<br>南　直人 | 34 名 | 石山寺 | 事前学習の後、現地見学、翌週レポート提出 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学演習Ⅱ | b | 登谷伸宏 | 3 回生 | 大津市 | 石山寺の見学 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学実習Ⅲ | b | 登谷伸宏 | 3 回生 | 滋賀県高島市 | 萬明寺本堂の実測調査 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 歴史遺産学実習Ⅳ | b | 登谷伸宏 | 3 回生 | 長野県 | 長野県長野市・松代市・松本市の歴史的建造物の見学 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 研究入門Ⅰ | | 小寺隆幸 | 1 回生<br>小寺ゼミ生 | 近江八幡 | 近江兄弟社小学校（近江八幡市）の学外施設「兄弟社村」の草刈りボランティアを行う。 |
| 看護学部 | 看護学科 | ライフサイクル論実習 | | 堀　妙子<br>松本賢哉<br>深山つかさ | 1 回生<br>114 名 | 大津市瀬田公園体育館<br>大津市皇子が丘公園体育館 | ライフサイクル論実習として、大津市老人クラブ連合会主催の「体力測定会」に参加した。学生は、受付係、測定係、誘導係を担当し高齢者の方と関わった。 |

## 産学連携（共同研究等）の実績

「体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響」自動車運転時の眠気解消技術開発のための基礎研究

# アイシン精機株式会社との共同研究

### 活動の概要

本共同研究は、平成 28 年度から開始しました。研究背景として、年間 2 万件を超える運転事故の中、居眠り運転のような前方不注視を原因とする事故は、全事故のほぼ半数を占めるとされます。「眠気（覚醒水準の低下）」の原因は、不変的な走行環境（単調な景色など）や車両特性（操作の簡素化など）といった外的要因による受動的な刺激量の低下と、生体リズムや同一姿勢から生じる疲労といった内的要因による能動的な刺激量の低下によるものとされます。これらのような様々な要因によって引き起こされる眠気に対して、どのような手段が覚醒水準の維持向上に効果があるのかについて検討すべく、京都橘大学は研究代表者（健康科学部理学療法学科 兒玉隆之准教授）とトヨタグループのアイシン精機株式会社との共同研究をスタートしました。

本研究を通じて、高速道路での運転や長距離運転における事故軽減をめざしています。

### 活動の内容

本共同研究開始以前から、アイシン精機株式会社では運転時の眠気解消技術の開発に関する研究が取り組まれてきました。そのなかで、ドライビングシミュレータ実施時に体幹部骨格筋腱部に対し特定条件の『振動刺激』を付与することで眠気解消効果が得られる可能性を見出しました。このことを踏まえ、実際に『刺激によって脳内の覚醒水準に変化が生じるのか』という点を神経生理学的視点でより詳細に検討するために、昨年度は、本年度同様『体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響』というテーマにて研究を行いました。その結果、健常成人では、体幹骨格筋（中殿筋、広背筋など）への振動刺激が、脳内部位（補足運動野、頭頂連合野）の神経活動性を高め覚醒状態（眠気解消）をもたらすことを明らかにしました（2016 年自技会）。今年度は、睡眠不足や高齢者ドライバーの方々への効果検証を行っています。

### 今後の目標・課題

あらゆるドライバーを想定し対象者を拡大し、実走環境での検証を行います。また、眠気解消の客観評価と関連する脳賦活領域をより詳細に解明し公表（学会および論文）すると共に、脳内領域の賦活特徴に基づく振動刺激条件の最適化を図ることを目標とします。

### これまでの成果・実績

2015 年度
- 特許（発明の名称：「運動誘導装置」）出願（出願番号 2016 − 06198）

2016 年度
- 特許（発明の名称：「眠気解消装置」）出願（出願番号 2016 − 158434）
- 特許（発明の名称：「覚醒支援システム（仮称）」）出願（予定）
- 特許（発明の名称：「覚醒維持支援装置（仮称）」）出願（予定）
- 自動車技術会「2016 年春季大会」（横浜）にて共同発表（口述）
  『演題：振動刺激による運動錯覚を利用した眠気解消方法の検討』

### 期待される効果

本研究の成果は、侵襲度の低い生理指標（脳波）を用い、生理反応の側面から眠気解消効果を実証する信頼性および再現性の高い振動刺激条件を提案する初めての研究となります。また、本研究結果から眠気解消へ対する振動刺激の有用性が証明されれば、居眠り運転による運転事故を防止するための手段や技術の開発への一助となる可能性が期待されます。


◆研究者名：兒玉隆之　　京都橘大学 健康科学部理学療法学科准教授
　　山口秀明　　アイシン精機株式会社 基礎技術開発部

◆活動開始時期：2015（平成 27）年 4 月から継続中

◆連絡先：kodama-t@tachibana-u.ac.jp

## 公的研究費・助成金等一覧

| 種　別 | 研究者 | 所　属 | 企業・団体名 | 助成金名 | 内容・テーマ | 期　間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 受配者指定寄付金 | 遠藤　俊子 | 看護学部<br>看護学科<br>教授 | 株式会社ツムラ | | 看護学教育への漢方医学の導入に関する教育研究 | 平成 28 年 8 月～<br>平成 29 年 3 月 31 日 |
| 共同研究 | 兒玉　隆之 | 健康科学部<br>理学療法学科<br>准教授 | アイシン精機<br>株式会社 | | 体幹部骨格筋腱部への振動刺激が脳覚醒水準に及ぼす影響 | 平成 28 年 4 月 1 日～<br>平成 29 年 3 月 31 日 |
| 共同研究 | 村田　伸 | 健康科学部<br>理学療法学科<br>教授 | アシックス商事<br>株式会社 | | アシックス商事が開発したシューズの身体に与える影響についての検証、当該研究結果に基づくレポートについての監修、これらに付随する作業 | 平成 28 年 4 月 1 日～<br>平成 29 年 3 月 31 日 |
| 外部研究助成金 | 中野　英樹 | 健康科学部<br>理学療法学科<br>助教 | 京都市 | 京都発革新的医療技術助成金 | 脳卒中患者の上肢機能を改善させる新しいニューロフィードバック療法の開発と効果検証 | 平成 28 年 5 月 30 日～<br>平成 29 年 2 月 28 日 |
| 外部研究助成金 | 松石　泰彦 | 現代ビジネス学部<br>経営学科<br>教授 | 京都産学公<br>連携機構 | 文理融合産学連携促進事業 | 太陽電池充電機能付きスタイリッシュスマートフォンケースの開発 | 平成 28 年 7 月 29 日～<br>平成 29 年 7 月 28 日 |
| 外部研究助成金 | 小辻　寿規 | 現代ビジネス学部<br>都市環境デザイン学科<br>助教 | 公益財団法人<br>日本生命財団 | 日本生命財団高齢社会助成 | 地域高齢者の「居場所」運営の継続・終了要因の抽出 | 平成 28 年 10 月 1 日～<br>平成 29 年 9 月 30 日 |
| 外部助成金 | 安彦　鉄平 | 健康科学部<br>理学療法学科<br>専任講師 | 草津市 | 草津市社会実験事業 | 高齢者の認知機能と身体機能の改善を目的としたたちばな脳トレ体操の効果検証 | 平成 29 年 1 月～<br>平成 29 年 3 月 31 日 |
| 外部助成金 | 地域連携センター | | 京都市伏見区 | 伏見区区民活動支援事業補助金 | 醍醐中山団地での交通安全教室からなるコミュニティの輪 | 平成 28 年 7 月 1 日～<br>平成 29 年 3 月 31 日 |

## 協定等

# 自治体等との連携協力に関する協定の締結

2013 年～2016 年

| 協定（連携）先 | 締結日 | 締結事項 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 山科区 | 2013 年<br>9 月 24 日 (火) | 本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。<br>○まちづくりの推進<br>○地域産業の振興<br>○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興<br>○医療・健康・福祉の向上<br>○地域・社会に貢献できる人材の育成<br>○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進 | <br>地域連携・協力に関する協定 |
| 博愛会病院 | 2014 年<br>3 月 5 日 (水) | 理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 | |
| 大宅保育園<br>(現おおやけこども園) | 2014 年<br>6 月 1 日 (日) | 対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 | |
| 滋賀県野洲市 | 2014 年<br>6 月 17 日 (火) | 地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、協定を締結。 | |
| 京都市・醍醐中山団地町内連合会 | 2014 年<br>10 月 30 日 (木) | 京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。<br>○地域連携センター分室の開設<br>○留学生が暮らす国際シェアルームの運営<br>○住民との交流による地域貢献活動<br>○地域コミュニティの再生と活性化<br>○健康及び福祉活動 | <br>連携協定 |
| 滋賀県草津市 | 2014 年<br>12 月 25 日 (木) | 本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。<br>○幼児教育・児童教育に関する事業<br>○生涯学習に関する事業<br>○文化の振興に関する事業<br>○産業の振興に関する事業<br>○地域の活性化に関する事業<br>○人材育成に関する事業 | <br>子育て支援・包括協定 |
| 大津市老人クラブ | 2015 年<br>6 月 10 日 (水) | 地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 | |
| 京都市東部文化会館 | 2015 年<br>11 月 5 日 (木) | 本学と京都市東部文化会館 ( 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 ) は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。<br>○文化芸術活性化パートナーシップ事業<br>○文化・芸術の振興に寄与する人材を育成する<br>○学生の参加・学習 | |
| 和歌山県<br>和歌山県那智勝浦町 | 2016 年<br>6 月 3 日 (金) | 本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。<br>○地域資源再評価及び観光広報、教育研究提携<br>○人的資源の交流を通じた人材育成<br>○地域貢献活動の推進による地域文化の向上及び振興 | |

# Ⅷ
# 教員の活動実績等

## 教員の活動実績等

# 2016年度 学部・学科別活動実績

### 1 地域を対象とした研究活動

| 学部 | 学科 | 研究課題名 | 担当 | 対象地域<br>または実施場所 | 研究の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 日本文学科 | 京アニの研究 | 野村幸一郎 | 京都 | 京都のコンテンツ産業を代表するアニメーション制作会社、京都アニメーションの作品研究 |
| 文学部 | 歴史学科 | 和食文化の大学コンソーシアム準備会合 | 南　直人 | 京都市 | 京都府立大学和食文化研究センターが中心となり設立準備中の和食文化の大学コンソーシアムのための準備会合に出席し意見を述べた。3月1日のシンポジウムでも発表者となる。 |
| 文学部 | 歴史学科 | 北野天満宮文書の研究 | 尾下成敏 | 京都市 | 本学所蔵の北野社宮仕沙汰承仕家資料の翻刻を進めた。その成果は、本学発行の『京都橘大学研究紀要』43号（2016年3月発行）に「調査報告　本学所蔵「北野社宮仕沙汰承仕家資料」所収の中近世文書について（一）」というタイトルで公表されることになっている。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 内海家文書の整理 | 有坂道子 | 醍醐 | 醍醐和泉町の内海家に伝来する古文書の整理を行い（2002年度より継続）、目録作成作業を行う。最終巻（第3冊）となる目録の刊行は2016年度を予定。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 表現遊びから音楽づくりの分野への幼小接続についての共同研究 | 佐野仁美 | 東山区 | 2017年2月27日に京都市立東山泉小学校2年生を対象に、リズムの創作についての2時間の授業実践を行い、実践のまとめや助言を行う。科研費基盤Cにもとづく研究の一環でもある。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 地域高齢者の「居場所」運営の継続・終了要因の抽出 | 小辻寿規 | 全国 | 日本全国の居場所運営事例や制度の先進事例の調査研究を行った。2017年度には京都市内の居場所に対してアンケート調査を行う予定。 |
| 看護学部 | 看護学科 | 高齢者の英知を活用した「学びの場」プログラムの共同開発 | 河原宣子<br>堀　妙子<br>梶谷佳子<br>松本賢哉<br>常田裕子<br>野島敬祐<br>マルティネス真紀子 | 山科区・大津市 | 本研究は、With Aging を目指す高齢者の英知を活用した「学びの場」プログラムの開発を目標とする。研究フィールドとなる京都市山科区・大津市において平成26年度・平成27年度に実施した高齢者対象の老研式活動指標、WHO-5精神的健康状態、特性的自己効力感、主観的幸福感に関する質問紙調査の結果を踏まえ、身近な場所で実施できる「学びの場」プログラムを高齢者と共に検討した結果、年齢、性別、同居者の有無、地域、などの各尺度の差が見られた、この結果を踏まえた学びの場の開発が必要であるという結果に至った。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 男性を対象とした臨床心理学的子育て支援プログラムの開発 | 濱田智崇<br>青木　剛<br>井上裕樹 | 京都・滋賀 | 心理臨床センター主催「パパとママのこころ育て広場」において子育て支援プログラムの実践を積み重ねながら、前年度草津市で実施した子育て意識調査の結果を分析した。その内容は、日本心理臨床学会第35回秋季大会で発表し、心理臨床センター紀要「心理相談研究」第3号に掲載した。 |

## 2 地域貢献 活動

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 日本文学科 | 文芸講演会 | 野村幸一郎 | 200 | | 茂山良暢による狂言上演会。地域連携の観点から一般市民にも開放した |
| 文学部 | 歴史学科 | 女性歴史文化研究所シンポジウム | 南　直人<br>松浦京子 | 数十名 | 京都市 | 同研究所のシンポジウム「近代ヨーロッパにおける身体表現と身体ケアー食とファッションを中心にー」において南は講演を行い、松浦は司会を務めた。(7/9) |
| 文学部 | 歴史学科 | ラボール学園「日本史講座」 | 尾下成敏 | 無 | 京都市 | 「小牧山城ー織田信長の尾張統一」というテーマで講演した。織田信長の尾張統一過程と小牧山城の概要を扱ったものである。 |
| 文学部 | 歴史学科 | 滋賀県教育委員会シンポジウム「関ヶ原合戦と近江～豊臣近江から徳川近江へ」 | 尾下成敏 | | 滋賀県 | 「豊臣政権と近江」というタイトルで基調講演を行う予定、豊臣政権と徳川家康の関わり、近江国内の家康領について講演を行う予定である。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 文化財研修会（消防訓練） | 一瀬・小林・有坂・登谷 | 2回生全員 | 山科 | 勧修寺において、山科消防署・地域消防団の方々とともに文化財防災訓練を実施した。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 文化財特別公開におけるボランティア | 小林裕子 | 学科学生有志 | 松花堂 | 松花堂における文化財の特別公開に際して、拝観者の誘導・案内を行った。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 泉佐野市の寺社建築調査 | 登谷伸宏 | 3回生有志 | 大阪府泉佐野市 | 泉佐野市内の寺社建築調査を行った。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | 建勲神社の建造物調査 | 登谷伸宏 | 3回生有志 | 京都市 | 建勲神社の歴史的建造物の調査を実施する予定である（3月）。 |
| 文学部 | 歴史遺産学科 | いろは蔵の調査 | 登谷伸宏 | 3回生有志 | 大阪府泉佐野市 | いろは蔵の実測調査を行う予定である（3月）。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | げん Kids ★応援隊 | 顧問・倉持祐二 | 約30名 | 山科、草津市 | 学内外で15回の企画を実施。勧修小学校のもちつき大会・キャンプ・夏祭り、地域の自治会の地蔵盆でのリクレーション、学内でのもの作り・スポーツ企画に加え、山科団地祭りや下京子どもまつり、草津市の宿場祭りや第4回大路区民まつりにも参加。企画に参加した子どもたちや保護者に対するアンケート調査をもとに、今後の活動を豊かにすることも目指している。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 京都子ども守り隊～守るんジャー～ | 顧問・池田　修 | | 山科区大宅小学校周辺 | 大宅小学区内における月1度の夜間見回り活動、岩屋神社子どもみこし、大宅小での餅つき大会への参加。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | たち X パル | 顧問・口野隆史 | 子ども33名<br>学生25名 | 山科区小学校、琵琶湖畔 | 山科区内4小学校の子どもたちと琵琶湖畔の OPAL をベースにして、カヌー体験、水鉄砲、スイカ割り、ヨシのペン立て作り、レクリエーションを行う。琵琶湖の自然の魅力を味わうとともに、子どもたちの交流を図る（2016年8月9日実施）。 |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | パパとママとぼくとわたしのコンサート（春・夏・秋・冬全4回） | 阿部真子他 | なし | 山科（椥辻）のミュージックサロンYOSHIKAWA | 大人も子どもも気軽に楽しめるコンサートを考える企画。1部は新旧童謡をパネルシアターなどと紹介。2部は季節をテーマにしたクラシック音楽を中心に。飽きてきたら中庭で遊んだり、畳の部屋で寝転んだりできるという気楽さが好評であった。全4回公演（はる 4/23、なつ7/23、あき 10/22、ふゆ 2017年2/18） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | みほとしんこの Cabaret Night | 阿部真子他 | なし | 山科（椥辻）のミュージックサロンYOSHIKAWA | 現代におけるカバレット再現の試み第三弾。9世紀末から20世紀の初頭にヨーロッパで起こったキャバレー（カバレット）の再現を試みた。（2016年6/18） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | だから、いま“戦争と平和”を歌う～ | 阿部真子他 | なし | 山科（椥辻）のミュージックサロンYOSHIKAWA | 現代におけるカバレット再現の試み第四弾。戦争と音楽の関わりについて客席とやり取りをする形で行った。戦争に利用された音楽、失ったものへの悲しみ、平和の祈りなど、様々なプログラムを全21曲。（2016年8/21） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | どんぐり広場クリスマスコンサート | 阿部真子他 | なし | 京都市左京区の子育て支援施設『どんぐり広場』 | 京都市左京区の子育て支援施設『どんぐり広場』からの依頼公演。普段、コンサートに行けないママと子どものためのクリスマスコンサート。涙を流して聴いてくれた方もおられ、非常に好評であった。（2016年12/17） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | みほとしんこの Christmas Cabaret Night | 阿部真子他 | なし | 山科（椥辻）のミュージックサロンYOSHIKAWA | ありきたりなクリスマスコンサートを逸脱した演奏会の試み。賛美歌や各作曲家のアヴェ・マリアなどに加え、黒人霊歌やラテン音楽なども演奏。（2016年12/23） |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | オペレッタ公演 | 阿部真子 | 学生 10 名 | くりのみ保育園（京都市伏見区） | 卒業を控えた 4 回生が、くりのみ保育園の子どもたちの前で公演を。演目は「ネズミの嫁入り」（2017/3/7） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | みほとしんこの Cabaret Night | 阿部真子他 | 卒業生 30 名（予定） | 山科（椥辻）のミュージックサロンＹＯＳＨＩＫＡＷＡ | 翌日に卒業式を控えた京都橘大学の学生たちをターゲットに、童謡唱歌（『シャボン玉』など）をジャズふうにアレンジしたものや、複合拍子の感覚を楽しめる林光『歩くうた』など講義の要素をパロディ的に取り入れながら、卒業にまつわる曲やキャバレーソングなどを演奏予定。（2017/3/9） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 第 31 回近畿地区私立幼稚園教員研修大会（和歌山大会）、第 1 分科会（運動遊び等）助言者 | 口野隆史 | なし | 京都府 | 京都府私立幼稚園連盟より依頼を受け、「第 31 回近畿地区私立幼稚園教員研修大会（和歌山大会）・第 1 分科会（子どもが自ら進んで取り組み。成功体験を自信につなげる運動遊びとは　～子どもの運動発達と保育者の指導の分析を通して考える～）」の助言者を務めた。衣笠幼稚園の坂井麻衣教諭の運動遊びの実践の発表について、4 月頃から一緒に検討し、7 月の研修大会ではその発表の助言者を務めた。（2016 年 7 月 28、29 日） |
| 人間発達学部 | 児童教育学科 | 草津市立山田幼稚園園内研究会（運動遊び）に関わる講師 | 口野隆史 | なし | 草津市 | 草津市立山田幼稚園より依頼を受け、園内研究会の講師を務めた。同園においては 2016 年度、運動遊びを軸に「学びに向かう力を培う遊びの充実　～しなやかな心と体を育むために～」という園内研究テーマを設け、保育を展開している。この研究会においては、口野に講師を依頼し、これまでの山田幼稚園での取り組みを振り返り、今後のこのテーマをもとにした保育の展開について検討した。（2016 年 10 月 17 日） |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | KYOTO 駅ナカアートプロジェクト | 河野良平 | 約 10 名 | 京都市山科区 | 京都市交通局主催による地下鉄・椥辻駅改札周辺の壁面デザインプロジェクト |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 草津まちイルミ | 河野良平 | 約 15 名 | 滋賀県草津市 | JR 草津駅周辺の活性化を目的としたイベントで、照明を用いたオブジェを提案した。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 京都市営住宅リノベーションデザイン | 松本正富 | 15 名 | 京都市 | 京都市の依頼を受け、市営住宅の子育て世帯向けリノベーションデザインを提案し、実施案として採用された。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | めくるめく紙芝居プロジェクト | 小暮宣雄 | 約 12 名 | 京都市山科区 | 障碍のある人たちを中心とし、その介助者、地域住人、学生、教員、研究者を巻き込んで、アーティストをさまざまなジャンルから招聘することで、いままでにないアーツ創発環境づくりが行われるような地域実践型教育の開発と実施、評価を行うプロジェクト。<br>アートを通じて交流することで、様々なコミュニティが存在するということの認識ができる場となった。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | こだわり市場プロジェクト | 谷口知司 | 約 35 名 | 京都市 | こだわり市場ホームページならびに冊子の運営及び制作。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 修学旅行プロジェクト | 谷口知司 | 約 35 名 | 京都市 | おいでやす京都ホームページに関する取材および運営。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 「ルシオール・フェスティバル」の運営 | 木下達文 | 約 10 名 | 滋賀県守山市 | 守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。まち全体による相乗効果があった。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の運営 | 木下達文 | 約 20 名 | 滋賀県 | びわ湖ホールが行うイベントの子ども部門の運営支援を行う。約 3 万人来場する。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 「山科駅前陶灯路・バル」の運営 | 木下達文<br>小辻寿規 | 約 80 名 | 京都市山科区 | 駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は商店街イベントも併催した。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 熊野再発見プロジェクト | 木下達文 | 約 50 名 | 和歌山県那智勝浦町 | 和歌山県那智勝浦町の地域創生に関するプロジェクト。学生視点での提案を実施。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 「白川みんなの地蔵盆」開催協力（陶灯路の実施） | 木下達文 | 約 30 名 | 東山白川地域・白川を創る会、おちゃのこ会 | 白川地域の地蔵盆が開催できない地域での新たなコミュニティイベントの協力。 |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 清水焼陶灯器の開発協力 | 木下達文 | 2 名 | 主に山科区 | 小辻先生が実施するＰＢＬ授業における商品開発事業への協力。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | ＧＯＧＯカフェの運営協力 | 木下達文<br>小辻寿規 | 2 名 | 山科区 | 山科区が実施する区民交流イベントに関した企画・運営の協力。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 食の安全・安心（食中毒予防対策）講習とパティシエから学ぶ洋菓子作り実習 | 木下達文 | 約 30 名 | 山科区 | お菓子づくりをとおして、食の安全に関する認識を高めることができた。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 山科グルメガイド・食堂サイン制作 | 木下達文 | 20 名 | 山科区 | 2016 年度 4 回生の共同研究プロジェクト。「グルメガイド」と「ル・ビストロのサイン」 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | ジェラートの研究開発 | 木下達文 | 15 名 | 山科区 | 山科地域の素材を生かしたジェラートの研究開発。今年度は企画立案を実施。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 鴨川条例推進への協力 | 小辻寿規 | 約 50 名 | 京都府建設交通部河川課 | 京都府建設交通部河川課に対してどうすれば市民に対して利用しやすいようになるのか学生の意見をまとめ提出した。また、鴨川拠点整備（勧進橋～水鶏（くいな）橋）の愛称募集の協力を行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 京都市景観市民会議への協力 | 小辻寿規 | 約 20 名 | 京都市都市計画局都市景観部景観政策課 | 京都市景観市民会議市民公募委員応募への協力。また、本学学生 1 名が員として参加。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 山科・醍醐ウォーキングマップ | 小辻寿規 | 約 10 名 | 株式会社ビバ・山科地域体育館 | 山科・醍醐地域のウォーキングマップを山科地域体育館や東野公園の指定管理者である株式会社ビバと行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 東野公園活性化プロジェクト | 小辻寿規 | 約 10 名 | 株式会社ビバ・東野公園 | 東野公園をどうすれば地域住民により愛される公園にできるのか指定管理者である株式会社ビバと共に考え清掃やペンキ塗りなど、ハード面での改善を共に行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 陶灯路 PBL | 小辻寿規 | 約 30 名 | 山科区 | やましな駅前陶灯路に京都市内からの観光客を増員するにはどのようにすればよいのか、陶灯器セットの開発、PR ビデオの作成、スタンプラリーの実施などを行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | GOGO カフェ改善提案 | 小辻寿規 | 約 30 名 | 山科区役所地域力推進室総務・防災担当 | やましな GOGO カフェの参加者増をめざし、改善提案を行った。 |
| 現代ビジネス学部 | 都市環境デザイン学科 | 文化芸術による地域貢献プロジェクト | 小辻寿規 | 8 名 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団・京都市東部文化会館 | 京都市音楽芸術文化振興財団のアウトリーチ活動に参加し、提案を行った。 |
| 看護学部 | 看護学科 | いちごカフェ | 深山つかさ、鈴木久義、田邉幹康、望月紀子 | ボランティア 2 名 | | 老人保健施設いわやの里において、毎月 1 回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。 |
| 看護学部 | 看護学科 | 第 12 回たちばな健康相談 | 社会貢献WG（西村美八、梶谷佳子、工藤里香、岡田純子、中橋苗代、深山つかさ、内田亜里沙、中野志織、岩島エミ、西田大介、田邉幹康、加藤花） | ボランティア 47 名 | | 大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第 12 回の実施になった。参加者は 287 名である。 |
| 看護学部 | 看護学科 | 出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地（6/18） | 社会貢献WG（松本賢哉、西村美八、梶谷佳子、中橋苗代、深山つかさ、内田亜里沙、中野志織、岩島エミ、西田大介、田邉幹康、加藤花） | ボランティア 10 名 | | 学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で実施した。参加者は 22 名であった。 |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 看護学部 | 看護学科 | 出張たちばな健康相談 in 醍醐中山団地（1/21） | 社会貢献WG（松本賢哉、堀妙子、深山つかさ、岡田純子、加藤花） | ボランティア7名 | | 学園祭時のたちばな健康相談の出張版。醍醐中山団地集会所で第 2 回目を実施した。参加者 24 名であった。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | 守山市介護予防事業「健康のび体操」の効果検証 | 宮﨑純弥 | 5 名 | 守山市 | 守山市自治体 2 地区の 31 名を対象に 9 週間「健康のび体操」を実施して頂き、その前後での身体機能を測定した。その結果、全ての測定項目で改善が認められ、参加者からは、今後も続けて行きたいとの声が多数聞かれた。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | 野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究 | 村田他 5 名 | 22 名 | 野洲市 | 約 300 名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果をふまえて、高齢者自身が健康度を体力年齢でチェックできる「高齢者向け元気はつらつサポートブック」、ならびに高齢者の介護予防対策に有効と思われる健康体操を収録した「たちばな健康体操ＤＶＤ」を作成し、野洲市および参加高齢者に配布した。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | 腰痛改善・予防教室 | 安彦他 4 名 | 8 名 | 山科区 | 腰痛を有する地域在住者（延べ人数 240 名）を対象に、腰痛を改善させる身体、心理的アプローチを合計 6 回実施した。その結果、腰痛は有意に軽減した。この要因は、身体機能ではなく、心理機能の改善が認められたためと考えられる。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | たちばな健康体操運動研修会 | 安彦他 1 名 | 4 名 | 野洲市 | たちばな健康体操 DVD の作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に使用いただけるように、地区ごとに DVD を配布した。なお、研修会は計 2 回実施した。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | たちばな健康体操運動研修会 | 安彦鉄平 | 2 名 | 山科区 | 西野公会堂にて、たちばな健康体操 DVD の作成意義および体操の説明会を実施した。多くの方に、健康のためにも身体だけでなく認知機能も維持する必要があることをご理解いただいた。 |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | 認知機能に関する研修会 | 安彦鉄平 | なし | 山科区 | 2 月に実施予定です |
| 健康科学部 | 理学療法学科 | わかあゆ<br>呼吸ケア研究会 | 堀江、他 5 名 | 358 名（累積） | 大学近隣医療機関 | 全 4 回シリーズ＋特別講演で実施した。第 1 回呼吸の解剖・生理、検査データの解釈、第 2 回慢性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第 3 回急性期呼吸器疾患患者のリハビリテーション、第 4 回在宅酸素療法・非侵襲的人工呼吸療法（座学と実技）のテーマで開催した。また、2016 年度は、作業療法士による呼吸リハビリテーションをテーマに特別公演を開催した。今年度で 5 回目を迎えるが、毎年、多くの医療従事者の参加がある、近隣では「恒例行事」としての地位を確保しつつある。特に、今年度、開催した作業療法士による呼吸リハビリテーションは、100 名を超える参加者があり、非常に盛況に終わった。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 臨床心理セミナー・事例検討会 | 菅佐和子<br>中西龍一<br>ジェイムス朋子<br>青木　剛<br>井上裕樹 | なし | 京都・滋賀・大阪等 | 心理臨床センター主催事業。臨床心理士や周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座。「ゲシュタルト療法入門」「精神分析的心理療法入門」「フォーカシング」「『家族』をテーマとする、年代を問わないケース・カンファレンス」「思春期・青年期を対象としたケース・カンファレンス」の計 5 回実施し、のべ 50 名の参加があった。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 対人援助職セミナー | 松下幸治 | なし | 京都・滋賀・大阪等 | 心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。6 回実施し、のべ 55 名の参加があった。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 不登校児の支援ボランティア | 井上裕樹 | 学生 7 名 | 兵庫県立但馬やまびこの郷（不登校児童生徒の支援施設） | 不登校児童生徒対象とした 4 泊 5 日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 保育コンサルテーション | 日比野英子<br>濱田智崇 | なし | 山科区<br>草津市 | 統合保育に関するコンサルテーションをのべ約 100 時間実施した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 発達障害児への学生による支援 | 日比野英子<br>濱田智崇<br>井上裕樹 | 学生 3 名 | 大宅保育園 | 発達障害児への支援として、学生が個別対応の補助を行い、教員はそのスーパービジョンを実施した。さらに卒業研究のテーマとして取り上げた。 |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康科学部 | 心理学科 | パパとママのこころ育て広場 | 濱田智崇<br>井上裕樹 | 学生 14 名 | 京都市<br>大津市 | 心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センタープレイルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は 8 回実施。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 山科保健センター<br>3 歳児健診 | 濱田智崇 | なし | 山科区 | 山科保健センターが実施する 3 歳 3 ヶ月児健診において、心理相談を担当した。はっ筒障害の疑いや、保護者に子育て不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 山科保健センターすくすくクラブ | 濱田智崇 | なし | 山科区 | 山科保健センター主催、4 ヶ月～ 8 ヶ月の赤ちゃんと保護者を対象とする「すくすくクラブ」において「子育てを楽しむために」と題して講演を行った。8 月と 3 月に実施した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 大宅イクメンパパの会 | 濱田智崇 | なし | おおやけこども園 | 大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。今年度は大宅イクメンパパの会として、3 回実施した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 草津市中心部における来街者調査の実施 | 永野光朗 | 学生 20 名 | 草津市 | 心理学科 3 回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、ＪＲ草津駅東口近辺への来街者の意識や実態を明らかにするための来街者調査を近辺の商業施設 4 店舗において実施した。計 265 名分のデータを収集した。2 月 14 日に草津市において報告会を開催した。分析結果は草津市中心市街地活性化のために利用される予定である。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 1 回生科目「地域課題研究」における社会調査 | 永野光朗<br>濱田智崇<br>井上裕樹<br>藤原　勇 | 学生 60 名 | 守山市<br>草津市 | 学生たちはグループに分かれ、各自が以下の課題に取り組んだ。<br>①イベント来場者を対象とした需要動向調査（守山市）<br>②大型商業施設における消費者ニーズ調査（守山市）<br>③中心市街地における空き店舗調査（草津市）である。事前の学習、事後の課題（データ分析など）に取り組み、全グループ共同で報告会を開催した。 |
| 健康科学部 | 心理学科 | 1 回生科目「地域課題研究」における乳幼児との遊びを通しての交流体験 | 日比野英子 | 学生 20 名 | 野洲市 | 野洲市の子育て支援講座「子どもの健康づくり教室『子どもの発達』」。主に乳幼児の心の発達についてわかりやすく説明して、母親の理解を深め、育児への不安を緩和し、母子の豊かな交流を促す講座である。講演中の託児を 1 回生科目「地域課題研究」の一環として、学生が担当し、子育て支援の必要性を体感、さらなる子育て支援活動へのモチベーションを高める機会とした。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | ♯つながるたちばな爽快健康ウォーク 2016 | 千田いずみ | 11 名 | 山科区 | 「♯つながるたちばな　爽快健康ウォーク 2016」と題し、安朱小学校から大津港を発着点とするウォーキングイベントを開催しました。メディカルチェックや歴史ガイド、三井寺での説法と言った企画に参加者は非常に満足されている様子でした。イベントを通して、参加者の健康増進だけでなく地域の魅力を再発見し、学生との交流を通して活気ある町づくりにつながる成果を得ることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 同志社中学校<br>心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 5 名 | 京都 | 中学 2 年生 293 名を対象に心肺蘇生法の講習を実施しました。トレーニングキットを 2 人に 1 個使用したことで、体験時間を多く作ることができ、体験を通して命を救うことの大変さと、自分でもできることがあるという自信をもたせることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 勧修寺小学校<br>心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 8 名 | 山科区 | 勧修寺小学校の体育館を会場に、地域防災の一環で心肺蘇生の講習を行いました。参加者は小学生からご高齢の方までいましたが、学生は主に小学生を指導しました。終始楽しく学びながらも、命を救う術を知るきっかけとすることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大宅保育園園児対象<br>心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 6 名 | 山科区 | 大宅保育園の園児 70 名を対象に心肺蘇生の講習を行いました。命について考える一つのきっかけづくりとして実施しましたが、非常に興味をもって楽しく学んでいるようでした。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大宅保育園教職員対象<br>心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 6 名 | 山科区 | 保育園の教職員を対象に、小児乳児の心肺蘇生および窒息や溺水・熱中症などのファーストエイドについても講習を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 勧修寺小学校夏祭り救護 | 夏目美樹 | 12 名 | 山科区 | 勧修寺小学校で開催された夏祭りにおいて救護活動を行い、イベントの安全管理や事故発生時の対応を行いました。 |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 勧修寺保育園園児対象心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 6 名 | 山科区 | 勧修寺保育園の園児 35 名を対象に心肺蘇生の講習を行いました。命について考える一つのきっかけづくりとして実施しましたが、非常に興味をもって楽しく学んでいるようでした。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 椥辻保育園園児対象心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 8 名 | 山科区 | 椥辻保育園の園児 68 名を対象に心肺蘇生の講習を行いました。命について考える一つのきっかけづくりとして実施しましたが、非常に興味をもって楽しく学んでいるようでした。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 岩屋保育園園児対象心肺蘇生講習 | 千田いずみ | 6 名 | 山科区 | 岩屋保育園の園児 100 名を対象に心肺蘇生の講習を行いました。命について考える一つのきっかけづくりとして実施しましたが、非常に興味をもって楽しく学んでいるようでした。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | ひかりアートプロジェクト＆おやじフェスタの救護 | 千田いずみ | 10 名 | 山科区 | ひかりアートプロジェクト＆おやじフェスタにおいて救護活動を行い、イベントの安全管理や事故発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 山科区総合防災訓練運営補助 | 千田いずみ | 10 名 | 山科区 | 山科区総合防災訓練において参加者の誘導や炊き出しのお手伝いを行いました。訓練を通じて、地域の方々との関わりを築くとともに、地域の防災体制について学びました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 日本熱傷学会 PBEC コース | 関根和弘 | 10 名 | 京都 | 日本熱傷学会が公認する講習会の補助や傷病者役を実施した。救急医療関係者らが真剣に受講している姿を見て、将来の自分自身に重ねることができた。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 山科区総合防災訓練運営補助 | 北小屋 裕 | 4 名 | 山科区 | 山科区総合防災訓練において、山科区社会福祉協議会の職員とともに参加者に災害ボランティアセンター啓発事業を行った。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 全日本空手　救護 | 夏目美樹 | 4 名 | 大阪 | 大阪府立体育会館で行われた全日本空手大会において救護活動を行いました。競技中の外傷が多く、ドクターとともに観察や応急処置を行い、授業で習ったことの実践的なトレーニングになりました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 東総合支援学校心肺蘇生講習 | 夏目美樹 | 6 名 | 京都 | 東総合支援学校において教職員を対象に心肺蘇生の講習を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 京都大学付属病院院内スタッフ対象 BLS ＆気管挿管介助トレーニング | 千田いずみ | 10 名 | 京都 | 院内スタッフを対象とした心肺蘇生の初期対応トレーニングおよび気管挿管介助のトレーニングに指導者として参加しました。医療従事者に指導するということで受講生の背景に配慮した指導が必要であるとともに、院内での薬剤を使用した処置対応などを学ぶことができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大宅小学校サマーフェスティバルの救護 | 夏目美樹 | 13 名 | 山科区 | 大宅小学校で開催されたサマーフェスティバルにおいて、救護活動を行い、イベントの安全管理や事故発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | イタリアンバルフェスタの救護 | 夏目美樹 | 12 名 | 京都 | 京都市役所前広場で開催されたイタリアンバルフェスタにおいて、救護活動を行い、イベントの安全管理や事故発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | やましな駅前陶灯路の救護 | 夏目美樹 | 12 名 | 山科区 | 山科駅前で開催されたやましな駅前陶灯路において、救護活動を行い、イベントの安全管理や事故発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 病院前外傷コース（京都第一赤十字病院） | 夏目美樹 | 8 名 | 京都 | 京都第一赤十字病院で開催された病院前外傷コースにおいて、運営の補助を行いました。医師・看護師・救急救命士など医療従事者とのかかわりを通して、現場知識を知るとともに多職種連携の重要性について知ることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 病院前外傷コース（福知山市民病院） | 夏目美樹 | 8 名 | 京都 | 福知山市民病院で開催された病院前外傷コースにおいて、運営の補助を行いました。医師・看護師・救急救命士など医療従事者とのかかわりを通して、現場知識を知るとともに多職種連携の重要性について知ることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 病院前外傷コース（岡本記念病院） | 夏目美樹 | 10 名 | 京都 | 岡本記念病院で開催された病院前外傷コースにおいて、運営の補助を行いました。医師・看護師・救急救命士など医療従事者とのかかわりを通して、現場知識を知るとともに多職種連携の重要性について知ることができました。 |

| 学部 | 学科 | 活動名 | 担当 | 学生参加の有無その人数 | 対象地域 | 活動の内容や成果 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 病院前外傷コース（京都橘大学） | 関根和弘 | 10 名 | 京都 | 京都橘大学で開催された病院前外傷コースにおいて、運営の補助を行いました。医師・看護師・救急救命士など医療従事者とのかかわりを通して、現場知識を知るとともに多職種連携の重要性について知ることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 京都マラソン救護ボランティア | 夏目美樹 | 152 名 | 京都 | 京都マラソン 2016 において、走路沿道およびフィニッシュエリアのマラソン参加者・応援観覧者の事故発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大阪マラソン救護ボランティア | 西本泰久 | 20 名 | 大阪 | 大阪マラソン 2016 において、走路沿道のマラソン参加者・応援観覧者の心停止発生時の対応を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 高槻駅救急フェア | 冨士原 彰 | 5 名 | 大阪 | JR 西日本あんしん社会財団主催のイベントにおいて、来場者を対象に心肺蘇生の講習を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 吹田駅救急フェア | 千田いずみ | 5 名 | 大阪 | JR 西日本あんしん社会財団主催のイベントにおいて、来場者を対象に心肺蘇生の講習を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大阪駅救急フェスタ | 千田いずみ | 10 名 | 大阪 | JR 西日本あんしん社会財団主催のイベントにおいて、来場者を対象に心肺蘇生の講習を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | みんなの防災＋ソナエ | 千田いずみ | 8 名 | 奈良 | 奈良県のイオンモールで開催された「みんなの防災＋ソナエ」で来場者を対象に心肺蘇生の講習や防災の知識を深めてもらうゲームを行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 日本 DMAT 隊員養成研修 | 久保山一敏 | 20 名 | 大阪 | 独立行政法人国立病院機構　大阪医療センターで開催された DMAT 隊員研修に運営補助として参加しました。DMAT チームの災害時の活動や他職種連携、国の方針・仕組みについて学びました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 済生会滋賀県病院災害訓練 | 関根和弘 | 30 名 | 滋賀 | 済生会滋賀県病院で開催された災害訓練に傷病者役として参加しました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 勧修寺小学校もちつき大会　救護 | 夏目美樹 | 11 名 | 山科区 | 勧修寺小学校で行われた餅つき大会において救護活動を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 勧修小学校キャンプ | 夏目美樹 | 12 名 | 山科区 | 勧修寺小学校で行われた勧修おやじの会キャンプにおいて救護活動および運営活動を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 大宅地蔵盆　救護 | 夏目美樹 | 6 名 | 山科区 | 大宅地蔵盆で救護活動を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 医師会主催心肺蘇生講習 | 冨士原 彰 | 4 名 | 大阪 | 相生市総合福祉会館において大阪府医師会主催の市民対象心肺蘇生講習会に指導者として参加しました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | こどもフェスタ救護 | 夏目美樹 | 6 名 | 山科区 | 東本願寺山科別院長福寺で行われたこどもフェスタにおいて救護活動を行いました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 山科ハイツ　心肺蘇生講習 | 夏目美樹 | 4 名 | 山科区 | 山科ハイツで開催された心肺蘇生講習において指導者として参加しました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | 病院前外傷コース（京都市立病院） | 夏目美樹 | 8 名 | 京都 | 京都市立病院で開催された病院前外傷コースにおいて、運営の補助を行いました。医師・看護師・救急救命士など医療従事者とのかかわりを通して、現場知識を知るとともに多職種連携の重要性について知ることができました。 |
| 健康科学部 | 救急救命学科 | JATEC コース運営補助 | 夏目美樹 | 4 名 | 京都 | 京都府医師会主催の JATEC コースにおいて傷病者役および運営補助を行いました。 |
| 看護学部 | 看護学科 | 次世代育成看護研究会 | 遠藤俊子<br>神崎光子<br>工藤里香<br>常田裕子<br>宗由里子<br>生橋幸実<br>兵藤絵美 | 院生 5 名 | 京都、大阪、滋賀 | 周産期医療に関わる看護職を対象に、看護職者自身のエンパワーメントを支え、社会の要請に応えられる看護の質向上をめざし、公開研修会を開催した。「助産師のキャリアを育てる - 助産実習指導」「漢方を看護に活かすには～周産期のフィジカルアセスメント～」「NICU/GCU から在宅へ」「胎児疾患を持つ妊婦とその家族とのかかわり～看取り、グリーフケア」「病院と地域の連携～特定妊婦や児童虐待」の計 5 回実施し、のべ 133 名の参加があった。 |

# 広報誌「つながる」2016 年度　CONTENTS

地域連携センターでは、地域貢献活動や公開講座や地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、年 2 回広報誌「つながる」を発行しています。

## 「つながる」第９号　2016 年 11 月 20 日発行


1. Interface　実践の知　第 8 回
障害者雇用について
狩俣　正雄　　滋慶医療科学大学院大学客員教授／大阪市立大学名誉教授

2. 第 7 回橘セッション
遠隔地域と大学との連携の在り方について
地域包括協定を締結した和歌山県および那智勝浦町との連携について考える

中世の熊野那智と京都
熊野詣と補陀落渡海を中心に
細川　涼一　　本学学長／文学部歴史学科教授

和歌山県の過疎対策および
大学のふるさと事業の成果について
柏木　忠寛　　和歌山県過疎対策課移住推進班主査

那智勝浦町の現状・課題と今後の将来計画
小谷　成郎　　那智勝浦町役場総務課企画係副主査

京都橘大学・熊野再発見プロジェクト 2016
参加学生の報告
朝岡　一将　　本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 4 回生
大門　佑輔　　本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 4 回生
中村　岳樹　　本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 4 回生
田中　成奈　　本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 4 回生
田中　裕子　　本学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 4 回生

3. 京都モダニズム建築を訪ねて　第 19 回
真言宗智山派智積院檀信徒会館
河野　良平　　本学現代ビジネス学部准教授

4. Interview　ともに　第 9 回
障がいがあっても、なくても、安心して暮らせるまちに
障がいのある人が、まちなかで働き、暮らす意味
橋本　伸子　　一般社団法人ほっこり代表理事・ほっこりステーション施設長

## 「つながる」第10号　2017 年 3 月 20 日発行


1. 織田直文教授　追悼特集
織田直文教授　研究業績一覧

臨地まちづくり教育実践家、織田教授の想い出
小暮　宣雄　　本学現代ビジネス学部教授

織田直文先生を偲んで
鈴木　好美　　本学卒業生／織田ゼミ・臨地まちづくり研究会初代リーダー

2. Interface　実践の知　第 9 回
地域と大学の連携
平尾　毅　　本学現代ビジネス学部教授

3. 京都モダニズム建築を訪ねて　第 20 回
京都市蹴上浄水場
河野　良平　　本学現代ビジネス学部准教授

4. 経営デザインフォーラム報告
観光ビジネスとそれを支える情報システム
阪本　崇　　本学現代ビジネス学部長／教授

5. Interview　ともに　第 10 回
「住んでよかった」と思える山科を創る！
地域をみつめ、地域とともに歩む経済団体として
川中　長治　　一般社団法人山科経済同友会会長
有限会社 川長商建 代表取締役

2016 京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）
（2016年4月～2017年3月）

発行日　2017年3月31日
発　行　京都橘大学　地域連携推進機構　地域連携センター
〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34
TEL：075-574-4342　FAX：075-574-4149
URL：http://www.tachibana-u.ac.jp
E-mail：occ@tachibana-u.ac.jp